

(7) 岬。

(一) 納沙布岬。北見ノ知床岬ト相對シ根室ノ南ニ斗出セリ。以テ根室灣ヲナセリ。

(二) 知床岬。北見ノ東ニ斗出シテ西北、宗谷岬ト遙ニ相對ス。

(三) 襟裳岬。日高ノ南端ニシテ太平洋ニ斗出ス。往時ハ此地ヲ以テ口蝦夷、奥蝦夷ノ境トセリ。

(四) 宗谷岬。北見ノ北端ニシテ樺太島ト相對シ。宗谷海峽ヲナス。

(五) 神威岬。後志ノ西北端ニ在リ。

(六) 繪鞆岬。膽振ヨリ斗出シテ灣口ヲナス。

(七) 惠山岬。渡島ノ東ニ斗出シテ、南ハ陸奥ノ尻屋岬ニ、東

ハ遙ニ襟裳岬ニ對ス。

(八) 白神岬。渡島ノ西ニ斗出ス。惠山岬ト白神岬ノ中間ニ箱館アリ。

(8) 港、灣。

(一) 函館港。惠山、白神、兩岬ノ間ニアリ。我カ國五港ノ一。港

内水深ク船舶ヲ入ル、ニ便ナレバ交易甚盛ナリ。

(二) 小樽港。後志ノ東北ニアリ。蝦夷島西岸ノ要港ニシテ、船舶常ニ集ル。

(三) 室蘭港。繪鞆岬ノ北ニアリ。此港ハ既ニ軍港トナシテ、鎮守府ヲ置カルベキ處ナリ。

(四) 内浦灣。膽振ト渡島トニテ圍ミタル灣ナリ。灣ノ内ヨリ火山ヲ望ムヲ以テ或ハ火山灣トモイフ。

(9) 海峡。

(一) 宗谷海峡。宗谷岬ハ露西亞ノ領地樺太島ト海峡ヲ以テ相對ス。其間十一里、之ヲ宗谷海峡ト云フ。潮流極メテハヤシ。

(二) 津輕海峡。(一名松前峽)北海道ト本土トノ間ニアリ。海峡中最モ濶シ。其最モ狹キ處ト雖五里アリ。

(10) 都會。

(一) 函館。渡島ニアリ、五港ノ一ニシテ人口凡五萬三千。箱館山、港口ヲオホヒ、四時風波ノウレヘナシ。

(二) 福山。松前氏ノ舊城地ニシテ、渡島ノ西南岸ニアリ。人口一萬一千餘。

(三) 江差。渡島ノ西岸ニアリ、人口一萬三千餘。此ノ地モ亦

其港アリ。

(四) 札幌。石狩ノ札幌ハ北海道廳及ヒ屯田兵本部。札幌農學校等アリ、北海道中ニテ最繁盛ナル都邑ナリ。

(11) 古跡。

(一) 五稜廓。函館ニ在リ。維新ノ時、榎本鎌次郎、大島圭介等ノ據リテ官軍ニ抗シタル所ニシテ、今ハ其ノ濠ヨリ氷ヲ産ス。

(12) 島。

千島諸島。千島ハ根室ノ東北ニアル群島ナリ。其數三十餘。概火山ノ脈アリ。其大ナル島ハ國後、擇捉、得撫、幌筵等ナリ。極北ノ一島ヲ占守島トス。露西亞ノ堪察加ト相對シテくるり海峡ヲナス。

(13) 附、沿革ノ大要。

コノ地ハ往昔蝦夷ト稱シ、土人ヲアイヌト呼フ。言語風俗内地ト異ナル以テ、之ヲ畿内七道ノ外ニ置ケリ。明治二年北海道ト稱シ、十一國ニ分チ、開拓使ヲ置キテ統轄シ、屯田ノ兵ヲ設ケ、以テ北邊ノ備ニ充テリ。同十五年開拓使ヲ廢シ、札幌、根室、函館ノ三縣ヲ置キシガ、同十九年悉ク縣ヲ廢シテ、更ニ北海道廳ヲ置キ、益々屯田ノ兵制ヲ張り、交通ノ便益ヲ圖リ、日々月々開進ニ赴クノ勢アリ。

第六、山陰道。

(1) 位置、境界。

中國北岸ノ日本海ニ濱スル地ニシテ、東ハ北陸、東、山二道

及ヒ畿内ニ境シ、北ハ一面、日本海ニ臨ミ、南ハ山陽道ト山脊ヲ分チテ、相表裏ス。東西ノ長八十一里、南北ノ幅廣キ所二十三里、面積ハ一千百十方里。

(2) 區劃。

丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐ノ八國ニ分レ、内ニ鳥取、松江ノ二市、五十四郡アリ。政治區ハ之ヲ鳥取、島根ノ兩縣ニ分チ、丹波五郡及丹後一國ハ京都府ニ屬シ、但馬及丹波ノ内ノ二郡ハ兵庫縣ニ屬ス。

(8) 山嶽。

- (一) 大江山。丹波ノ北境ニ在リテ、丹後ニ跨ル。
- (二) 大山。伯耆ノ中央ニアリ。高サ五千八百七十七尺。山中ニ舊火口ヲ存ス。

(4) 川流。

(一) 江川。備後ヨリ來リ、石見ヲ貫キ流レテ石見瀨ニ注ク

(一名石見川)全道第一ノ大河ナリ。

(二) 朝來川。源ヲ播磨ノ境ナル生野銀山ヨリ發ス。下流ニ城ノ崎ノ温泉アリ。

(三) 由良川。丹波ヨリ來リ、丹後ニ入り海ニ注ク、河口ヲ由良港ト稱ス。

(5) 湖。

(一) 六道湖。出雲ノ北ヲ擁スル、島根半島ニヨリテ日本海ト限ラル、淡水湖ニシテ、周回十三里餘アリ、山陰第一ノ大湖。

(6) 港。

(一) 境港。伯耆ニ在リ。山陰道第一ノ良港ニシテ、出雲ノ三保關ト相對シテ灣口ヲナス。

(二) 舞鶴港。丹後ノ舞鶴ノ入江ノ南岸ニアリ。近年軍港トシテ鎮守府ヲ置クコト、ナレリ。

(7) 都會。

(一) 宮津。丹後ノ宮津ハ最モ良港ニシテ、頗風浪ヲ避クルニヨロシ。

(二) 杵築。出雲ノ西岸ニアリ、出雲大社ノアル所ニシテ亦繁華ノ地ナリ。

(三) 米子。中海ノ東南岸ニアリ、伯耆ノ西部ノ都會、人口一萬五千。

(四) 鳥取。賀露川ノ東ニアリ。鳥取縣廳アリ、山陰道第二ノ

大都會ニシテ人口二萬八千。

(五)松江。山陰道第一ノ都會ニテ人口凡三萬五千。宍道湖

ト中海トノ間ニアリテ通運ノ便ニ乏シカラス。島根縣

屬コ、ニアリ。東京ノ西二百二十三里。

(8) 古跡、及勝地。

(一)船上山。伯耆ノ中央ニアリ昔名和長年一族ヲ率キテ、

後醍醐天皇ニ忠勤ヲイタシ、處ナリ。

(二)天ノ橋立。丹後ノ與謝海ニ斗出シタル沙嘴ニシテ老

松生ヒ茂リ、サナガラ長橋ノ如シ。其眺望ヨキヲ以テ我

ガ國三景ノ一トス。

(9) 産物。

但馬ノ生野銀山ヨリ多ク金銀ヲ出タシ、出雲、石見ニ鐵

丹後縮緬、但馬ノ柳行李、石見ノ半紙ヲ主ナルモノトス

第七、山陽道

(1) 位置、境界、

山陰道ノ南ニアリ。南方ハ瀬戸ノ内海ヲ挾ミテ南海道ト
相對シ、西ハ海峽ヲ以テ西海道ニ境ス。道形東西ニ延長ス
ルヲ以テ、其里程百〇七里ニ餘ル。南北ノ幅平均十五里。面
積一千五百七十方里。

(2) 區劃。

播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門ノ八國。八十一郡ニ
分ツ。政治區ハ岡山、廣島、山口ノ三縣トシ、播磨ハ兵庫縣ニ
屬セリ。道中ニ姫路、岡山、廣島、赤間關ノ四市アリ。

(3) 山嶽。

著シキ高山ナシ、山脈ノ平均高サ約二千尺乃至三千尺。
 (一) 書寫山。播磨ノ中央ニアリ、廣峰山ノ西北ニ峙立ス。
 (二) 笠形山(播磨) 蛭山(美作) 鬼城山(安藝) 秘密岳(周防) ナドアレ
 凡其ノ高サ甚シカラズ。

(4) 川流。

- (一) 加古川。源ヲ丹波ニ發シ、播磨ニ來リ荒田川ヲ合セ、高砂浦ニ至リテ海ニ入ル。
- (二) 東大川、西大川。共ニ備前ノ二大河ナリ。甲ハ東ニアリ乙ハ西ニアリ。西大川ハ旭川トモ云フ。兒島灣ニ注グ。
- (三) 河邊川。備中第一ノ巨川タルヲ以テ單ニ大川トモ呼ベリ。
- (四) 岩國川。周防ノ東部、岩國ノ西ヲ流ル。此川ニ架セル錦

帶橋ハ世ニ名高シ。

(5) 灘。

- (一) 周防灘。周防ノ海岸ニ近キ海チイフ。
- (二) 水島灘。備中、備後ト四國島トノ間ノ海ナリ。
- (三) 播磨灘。播磨ノ沖チイフ。

(9) 港灣。

- (一) 下ノ關港。長門ノ西南隅ニアリ。水陸輻輳ノ要港ナリ。赤馬關トモ稱ス。
- (二) 吳港。廣島ノ東南ニアリ。海軍鎮守府ヲ置ケリ。其對岸ナル江田島ニハ海軍兵學校アリ。
- (三) 宇品港。廣島ノ南一里ニアリ。征清軍ノ乘船及ヒ運漕等ハ皆此ノ港ヨリ發シタリ。

(三)廣島灣、能美島嚴島ノ北チイフ。
(7) 峽。

(一)早瀬海峽(或ハ)豐前國企救郡及長門國赤間關港ノ間ニ
アリ。赤間關海峽ノ別稱アリ。其ノ兩岸ニ砲臺アリ。

(8) 都會。

(一)廣島。安藝ノ中央ニアリ。市街ハ太田川ニ跨リ、第五師
團及ヒ廣島縣廳等アリテ、本道第一ノ繁華ナル都會ナ
リ。明治二十七年征清軍ヲ發セシ時 天皇陛下親征シ
テ大本營ヲ置キ給ヒタリキ。

(二)岡山。西大川ノ西岸ニアリ。岡山縣廳ノアル處ナリ。

(三)姫路。播磨ノ中央ニアリ。山陰、山陽諸國ヨリ畿内ニ出
ツル要路ニ當レリ。

(四)岩國。周防ノ東部ニアリ。

(五)山口。周防ノ西北、長門ニ近キ處ニアリ。山口縣廳アリ。

(六)福山。備後ニアリ海濱ニ臨ム。

(七)明石。攝津ノ須磨浦ニ接シ、南、淡路島ニ對シ、風光絶佳
ナリ。

(9) 勝地、及古跡。

(一)舞子濱。播磨ノ東海岸チイフ。攝津ノ須磨浦ニ連リ、汀
ニ青松アリ。風景最モヨロシ。

(二)壇ノ浦。長門ノ早瀬海峽ノ東ノ内海チイフ。源平二氏
ノ古戰場ニシテ阿彌陀寺ニハ安徳天皇ノ御陵及ヒ平
氏一族ノ墓アリ。

(三)嚴島。廣島ノ西南ナル海上ニアリ。我が國三景ノ一ニ

シテ樹木茂生シ、島中ニ嚴島神社アリ。

(10) 島。

- (一) 大島。周防ノ南東ニアリ。瀬戸内海中最大ナリ。
- (二) 能美島。安藝國ノ南ニ在リ。居民多ク、木綿ヲ出ス。
- (三) 倉橋島。能美島ノ南ニ連レル島ナリ。
- (四) 江田島。海軍兵學校アリ。西、能美島ニ對ス。
- (五) 向島、因島。備後ノ南ニ在リ。居民一萬以上。

(11) 産物。

赤間硯、姫路革、赤穂鹽、龍野醬油、備前燒、雲齋織(美作) 備後疊表、明石縮(播磨) 備前ノ長船ノ刀劍、伊部ノ陶器、備後ノ新津ノ酒。

第八、南海道

(1) 位置、境界。

畿内ノ南方ニ斗出セル本土ノ一部、即チ紀伊ト四國及ビ淡路ノ一島ヨリ成ル。紀伊ハ畿内及ヒ東海道ニ接シ、他ノ三方ハ海ニ圍マル。四國ハ北ハ瀬戸内海ヲ隔テ、山陽道ヲ望ミ。東ハ紀伊ニ對シ、南ハ太平洋ニ面シ、西ハ海峽ヲ隔テ、九州ニ對ス。淡路ハ本土ト四國トノ間ニ介在ス。面積一千五百九十八方里。内四國ハ面積一千百八十方里ニシテ東西ノ最モ長キ所ハ六十七里、南北ノ幅ハ三十三里。

(2) 區劃。

紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐ノ六國。五十九郡ニ分タル。政治區ハ和歌山、徳島、香川、愛媛、高知ノ五縣ニ分チ、淡路ハ兵庫縣ニ屬ス。市制ハ和歌山、徳島、高松、松山、高知ノ五市ニ施

行セリ。

(3) 山嶽。

(一) 高野山。和歌山ノ北ヲ流ル、紀川ノ上流ノ南方ニアリ。山上ノ金剛峰寺ハ僧空海ノ開キタル寺ナリ。高二千六百三十尺。

(二) 大塔峰。紀伊ノ中央ニ屹立セル高峰ナリ。

(三) 石槌山。伊豫、土佐ノ堺ニアリ。四國第一ノ高山ナリ。九月ノ末ニ至レバ山頂雪ヲ冠ストト云フ。

高サ六千二百尺餘。

(四) 劍山。土佐界ニ蟠結セル高峻ナル山ナリ。其脈延キテ

阿波ノ中部ヲ東走シ海濱ニ達ス。

(4) 川流。

(一) 熊野川。大和、十津川ノ下流ニシテ、新宮ニ至リ、熊野浦ニ注ク、全流三十五里。

(二) 紀ノ川。大和、吉野川ノ下流ニシテ、直ニ西流シ四十七里ニテ和歌浦ニ注グ。

(三) 吉野川。四國第一ノ巨流ニシテ四國三郎ト稱ス。源ヲ四國中央ノ山谷ヨリ發シ、東流シテ阿波ヲ貫キ海ニ入ル。長サ四十二里。

(5) 岬灣。

(一) 潮岬。紀伊國牟婁郡ノ南端ニアリ。

(二) 佐田岬。伊豫ノ佐田岬ハ海中ニ斗出スルコト九里許。其端ハ速吸海峡ヲ隔テ、九州島ノ佐賀關ト相對ス。

(三) 室戸、蹠陀。土佐ハ西ニ蹠陀、東ニ室戸ノ二岬アリ。其間

ノ大灣ヲ土佐灣ト云フ。

(四)土佐灣。室戸、鹽竈ノ二岬南海ニ斗出シ、東西相對シテ土佐ノ一大灣ヲナス。此灣ハ古陸地ナリシガ地震ノ爲メニ陥リテ海トナレリト云フ。

(五)都會。勝地。古跡。

(一)和歌山。和歌山縣廳ノアル都會ニシテ、北ニ紀ノ川ヲ帶ビ南ハ和歌浦ニ接ス、人口五萬六千餘アリ。

(二)徳島。阿波ノ吉野川ノ口ニアリ。徳島縣廳アリ、四國第一ノ都會ニシテ、商船四方ヨリ來集シ、通商盛ナリ。人口六萬一千餘。

(三)高知。土佐ニアリ、鏡川ノ流ヲ帶ビ海ニ近接ス。市街繁盛ニシテ高知縣廳アリ。人口三萬二千餘。

(四)松山。伊豫中部ノ都會ニシテ、愛媛縣廳アリ。人口三萬四千餘。

(五)高松。讚岐第一ノ都會ニシテ、香川縣廳アリ。四國ノ間ヲ航スル船舶ハ多ク此地ニ寄泊ス。人口三萬四千餘。

(六)丸龜。讚岐ノ西部、高松ノ西七里ニアリ、琴平ニ到ルノ要路ナリ。

(七)宇和島。伊豫ノ南部ニアリ。其港、佳良ニシテ市街モ亦盛ナリ。

(八)和歌ノ浦。和歌山ノ西南ニアル入江ナリ。風景頗佳ナリ。

(九)屋島。高松ノ東北ニ斗出スル半島ニシテ、平氏ノ源氏ニ破ラレシ古戰場ナリ。

(4) 川流。

(一) 川内川。源ヲ日向、大隅ノ山間ヨリ發シ、薩摩ヲ貫キ西流シテ京泊海ニ入ル。長サ四十六里。

(二) 筑後川。源ヲ豊後ノ山間ヨリ發シ、筑後ノ北境ヲ流レテ筑紫海ニ注ク。一名千歳川、又筑紫次郎ト稱シ、九州第一ノ大河ナリ。長サ三十五里。

(三) 球摩川。日本三急流ノ一ニシテ、日向境ヨリ發シ、九州南部山脈ト霧島帯トノ間ヲ奔流シ、二十八里ニシテ海ニ入ル。

(5) 岬。

(一) 佐多岬。大隅ノ最南端ニアリ。薩摩ノ開聞岬ト相對シテ灣口ヲナス、鹿兒島灣コレナリ。

(二) 野間岬。薩摩ノ西南端ニ在リ。

(三) 野母岬。肥前ノ南端ニ斗出セリ。

(9) 灘。

(一) 柳灘、玄海灘。筑前ノ北ニ斗出スルヲ鐘崎ト云フ、

其東ヲ柳灘ト云ヒ、西ヲ玄界灘ト云フ、浪頗高シ。

(二) 天草灘。肥前、肥後ノ間ノ海。

(三) 日向灘。日向ノ海。

(7) 港灣。

(一) 長崎港。肥前ノ西南部ニアリ。我が國五港ノ一ナリ。寛永年中ヨリ支那、和蘭ト交易ヲナシシヲ以テ古ヨリ繁華ナリ。丘陵環繞、一長灣ヲナス。灣内水深ク波穩ニシテ碇泊ニ便ナリ。

- (二)博多港。筑前國古來有名ノ港。船舶常ニ湊集ス。
- (三)門司港。早鞆海峡ノ西ニ在リテ、赤馬關ト相對ス。
- (四)佐世保港。肥前彼杵ノ入江ノ岸ニアリ、鎮守府アリ。
- (五)鹿兒島灣。薩摩大隅ノ間ノ入海。
- (8)都會。勝地。古跡。

(一)長崎。長崎縣廳、鐵工場、造船所及ヒ種々ノ製造所アリ。人口六萬七千餘。

(二)熊本。肥後、熊本縣廳ノアルトコロ、人口六萬餘、市街ノ繁華ナルコト九州第一ナリ。熊本城ハ加藤清正ノ造營セル所、西南ノ亂ニ谷干城等コノ城ニ據リテ賊軍ヲ伐チ退ケシ處。今第六師團アリ。

(三)鹿兒島。薩摩灣ニ臨ミ、鹿兒島縣廳アリ。市中繁華風景

- ニ富メリ。島津氏ノ舊城下タリ。
- (四)福岡。博多灣ニ臨ミ、博多ヲ合セテ一市街ヲナシ、人口五萬六千餘、福岡縣廳アリ。市街最モ繁華ニシテ舟泊ノ便アリ。
- (五)大分。豊後。地勢平坦ニシテ、大分川市街ノ東ヲ繞ル。大分縣廳アリ。其繁華國中第一ナリ。
- (六)佐賀。肥前。佐賀縣廳アリ。
- (七)宮崎。日向。宮崎縣廳アリ。
- (八)小倉。豊前。長門ノ赤間關ト相距ルコト僅ニ三里。中國ヨリ九州ニ至ル街道ノ始メニシテ市街繁華ナリ。
- (九)久米留。柳川。久留米ハ筑後平野ノ中央ニアリテ、人口二萬五千、國中第一ノ都會。柳川其西南ニアリテ、繁華之

ニ次ク。

(一〇) 島原。島原半島ノ東岸、港内船舶常ニ集ル。

(一一) 延岡。日向ノ北部ニ在リ。

(一二) 大宰府。福岡ノ東南ニシテ、道真左遷ノ地、天満宮ノ祠アリ。

(一三) 耶馬溪。豊前國、下毛郡ニアリ。長溪數里ニ亘ル、兩岸

奇峰重疊シ、一水屈曲シテ其間ヲ過ク、風景極メテヨシ。

(一四) 高千穂。霧島山ノ一峰ヲ高千穂ト云フ。太古ニ天孫

ノ降臨シ給ヒシ處ナリ。

(9) 島。

(一) 平戸島。平戸ノ額戸ヲ夾ミ本地ニ對ス。周回四十三里。

(二) 五島。肥前彼杵半島ノ西ニ在リ。福江、中通、宇久、奈留、久

賀ノ總稱。

(三) 天草島。肥後ニ屬ス。下島最大、周回七十里半、次ヲ上島

ス、周回三十七里、群島ノ西ハ天草洋ナリ。

(四) 櫻島。薩摩灣中ニアリ、周回十里。

(五) 種子島。大隅ノ西南、海上凡十里ニアリ、周回三十七里。

(六) 屋久島。種子島ノ西四里ニアリ、全島皆山、總稱シテ八

重岳ト爲ス。

(10) 産物。
石炭 三池 米 肥後 烟草 長崎 大隅 鯨 肥前 博多 織 前 小倉 織
豊久 留米 綴 筑伊 萬里 燒前 薩摩 燒摩

第十、琉球

(1) 位置、境界。

琉球ハ西海道ノ西南凡二百七里ノ距離ニ散布スル五十餘ノ島嶼ニシテ、面積百五十六方里アリ。

(2) 區劃。

北部ヲ沖繩諸島トシ、南部ヲ先島諸島トス、先島列島ノ與那國島ハ臺灣島ヲ距ルコト二十餘里ニ過キス。主島沖繩國頭部北中頭部中島尻部南ノ三部ニ分ツ。先島、群島中、宮古、石垣入表ヲ三大島トス。

(3) 氣候。

遠ク南海ニアルガ故ニ氣候温暖ニシテ、土人ハ霜雪ヲ知ラズ。草木常ニ茂リ、五穀ハ年ニニタビ熟シ、極寒ノ節ト雖大抵内地櫻花ノ時節ニ似タリ。然レドモ極暑ハ却テ甚烈シカラズ。大抵九十三四度ヲ常トス、那覇ニテ一年ノ平均

温度ハ凡七十一度。

(4) 産物。

砂糖、サトウ 上布、ウツ 紬、ヌメ 泡盛、モリ 疊表。

(5) 都會。

(一)那覇。沖繩島ノ西岸ニアリ、島中第一ノ港ニシテ沖繩縣廳ノアル處ナリ。人口四萬許市街繁盛。

(二)首里。那覇港ノ東凡五十町ニシテ首里アリ、舊琉球藩王ノ居城ナリ。

(6) 沿革ノ大要。

此國ノ始祖ヲ天孫氏トス、文武帝ノ時始メテ我が朝ニ入貢シ、爾來久シク藩屬タリシガ、明治十二年ニ至リ、全ク我が國ニ附屬セシテ以テ、其王ヲ華族ニ列シ、縣ヲ置キ之ヲ

活ム。

第十一、臺灣

(1) 位置、境界。

琉球ノ西南ニアリ、東ハ太平洋ニムカヒ、西ト北トハ支那海ニ臨ミテ清國ノ福州ト相對ス。

其ノ幅、長、人口、等ハ未ダ詳ナルコト能ハザレド、面積ハ大略九州ニ等シカルベク、人口ハ三百萬内外ナラント云フ。

(2) 區劃。

中央ニハ南北ニ連亘セル大山脈アリテ自然ニ東西ニ部ニ分ル、西部ハ開ケテ臺北、新竹、臺中、嘉義、臺南、鳳山ノ六縣ニ分ル、東部ハ生蕃人ノ住スル地ニシテ未ダ開ケズ。西部東部ノ間ニハ熱蕃ト呼ブ人民住スル所往々アリ。

(3) 山川。

臺北ノ北ニハ大屯山アリ。臺北ノ東部ニ連レル大山脈中ニハ南湖、大山、合歡山等ノ名アリテ南ニ走リ新高山トナリ、鳳凰山トナリ、大傑塔山等トナル。

新高山ハ最モ高クシテ、直立ノ高サ一萬三千九百六十尺アリトイフ。

淡水川ハ連山中ヨリ發シ、西流シテ臺北ノ南ナスギ淡水港ニ入ル、流平ニシテ舟運ノ利アリ。

大肚溪ハ東連山中ヨリ發シ、西流シテ彰化ヲスギ海ニ入ル。

濁水溪ハ雲林地方ノ水ヲ集メテ西ニ出テ、分レテ數派トナリ、一ハ鹿港ニ注ギ、他ハ鹽水、海虎尾溪等トナリテ海ニ

入ル、此等ノ流、溪ト呼ブモ一ノ大川ニシテ常ニ舟ヲ通ズ
ベク、霖雨ノ時ニハ其ノ幅數里ノ流トナルモノアリ。

(4) 氣候。

地半ハ熱帯ニ在ルヲ以テ氣候温熱ナリ。然レドモ夏季ハ
最高温度九十六七度ニ至ルコトアレドモ、涼風高山ヨリ
吹キ下シテ割合ニ涼ギ易ク。冬季ハ温度五十度ヲ下ルコ
ト稀ナレドモ高山ニハ往々白雪ヲ見ルコトアリ。秋冬ハ
雨多クシテ春夏ハ雨寡シ。

(5) 産物。

最モ名高キハ砂糖ト茶ナリ。砂糖ハ臺南地方、茶ハ臺北地
方ノ特産ナリ。甘藷モ共ニ一年二回ノ收穫アリ。

(6) 都會。

(一) 臺北。臺灣ノ北部ニアル大都會ニシテ總督府、臺北縣

アリ市ハ城内城外ニ分レ、城内ハ近年建設セラレタル
モノニシテ城壁ヲ廻ラシ、内ニ官廳及市街アリ。城外ハ
舊來ノ市街ニシテ、城ノ西南ニアルヲ艋舺ト云ヒ、城北
ニアルヲ大稻埕ト云ヒ、西洋人モ多ク居留セリ。

(二) 臺中。臺中縣廳ノ在ル所ナリ。近年創始ノ市街ナルヲ
以テ、人戶少シト雖モ、地勢上後來ニ望アルノ地、大ニ盛
大ニ赴ク勢アリ。

(三) 新竹。臺北ノ南、四十三哩ノ地ニアリテ、新竹縣廳アリ。

(四) 臺南。元臺灣府ト云ヒ全島ノ首府タリシ所ニシテ、臺
灣第一ノ大都ナリ。臺南縣ヲ置ケリ。

(五) 基隆。又鷓籠トモ云ヒ臺北ノ東凡九里ニアル港ニシ

テ、港灣水深ク又近傍ニ石炭坑多キヲ以テ、船舶ノ出入盛ナリ、本國ヨリ渡航スル者ノ上陸地トス。

(六)彰化。全島ノ中央部ニアル都會ニシテ、近傍ノ土地豊饒ニシテ産物多シ。

(七)嘉義。臺灣府ノ南中央山脈ニ近キ所ニアリテ、一都邑ヲナス。嘉義縣廳アリ。

(八)安平港。臺南城外凡一里ニアリ、運河臺南ニ通シテ運輸ノ便アリ。盛ニ砂糖、樟腦等ヲ輸出ス。

(九)打狗港。南部ノ西岸即鳳山ノ海岸ニアリ、有名ナル港ナレドモ港口水淺クシテ大船ヲ入ルベカラス。盛ニ砂糖ヲ輸出ス。鳳山ハ此港ノ東二里ニ在テ、鳳山縣廳アリ。

(7) 島。

澎湖列島。臺灣ノ西ニアル群島ニシテ大小凡五十五島アリ。大ナルヲ澎湖島、白沙島、漁翁島ノ三トス。此ノ三島相寄りテ其間ニ廣キ港灣ヲ形成シ、數十艘ノ大艦ヲ入ルベシ。都會ハ馬公港ナリ。諸島樹木少ク、飲用水ニ乏シ、人民ハ大概漁業及ヒ雞豚ノ飼養ニ従事ス。

第十二、畿道別ノ面積人口

(一)	畿内	四百四十五方里餘	二百四十九萬人餘
(二)	東海道	二千六百六十二方里餘	九百廿七萬八千人餘
(三)	東山道	六千八百五十方里	八百五十六萬人餘
(四)	北陸道	千六百三十四方里餘	四百九十萬人餘
(五)	山陰道	千百〇九方里餘	百八十三萬人餘
(六)	山陽道	千五百七十方里餘	四百〇八萬五千人餘

(七)	南海道	千五百九十八方里餘	三百七十八萬人餘
(八)	西海道	二千八百廿七方里餘	六百廿二萬八千人餘
(九)	琉球	百五十六方里餘	四十萬六千人餘
(十)	北海道	六千九十五方里餘	三十萬人餘

歴史科

(一) 仁德天皇。

仁德天皇ハ應神天皇ノ御子ナリ、紀元九百七十三年即位、
 父帝ハ第二子菟道稚郎子ヲ愛シテ位ヲ譲リ給ハントセ
 シモ、稚郎子ハ「弟にして兄をさしれきて位に即くべきに
 あらず」トシ敢テ受ケ給ハズ、兄大雀命即チ仁德天皇ハ「親
 の定めれき給へるを敗むべからず」トテ受ケ給ハス、互ニ
 譲リアフコト三年ニ及ビシカバ、カクテハ民ノワヅラヒ
 トナルベシトテ稚郎子ハ遂ニ自殺シ給フ、大雀命之ヲ聞
 キテ大ニ驚キナゲキ給ヒシガ、センカタナケレバ位ニ即
 キ給フ。之ヲ仁德天皇ト申ス。

(二)仁徳天皇ノ御仁政ノ大畧。

天皇アルトキ高キ山ニ登リテ、四方ヲ見ワタシ給フニ、家
々ヨリ煙ノ立チノボルコト少シ、コレ吾ガ民ノ貧シクシ
テ食物ヲ炊グコトナリガタキ故ナラン。誠ニアハレナル
コトナリトテ、三年ノ間貢物ヲユルシ給ヘリ。其後豊年打
チ續キ、遺ノ烟多クタチノボレルヲ御覽アリ、朕既ニ富メ
リ、民ノ富メルハ朕ガ富メルナリトノタマヘリ。
(三)中臣鎌足。

中臣鎌足ハ天兒屋根命ノ後ナリ、博學ニシテ智勇アリ、深
ノ蘇我氏ノ專横ヲ憤リ、當代ノ女帝皇極天皇ノ皇子、中大
兄ト心ヲ合セ、内々忠義ノ士ヲ語ラヒ、然ルベキ隙ヲ待チ
ケルニ、三韓進調ノ儀式ニ、入鹿、單身昇殿シケレバ、中大兄

(四)和氣清麿。

物蔭ヨリ踊リ出デ、初太刀ヲ着ケ給ヒ、遂ニ入鹿ヲ誅シ
蘇我氏ヲ滅ボシヌ。
蘇我氏三世七十餘年ノ間、威權ヲ恣ニセシガ、是ニ至リテ
亡ビタリ。其ノ後鎌足ハ三代ノ天皇ニ事ヘ、薨スルトキ藤
原ノ姓ヲ賜ハル。コレ藤原家ノ先祖ナリ。
和氣清麿ハ備前ノ國藤野郡ノ人、モトノ姓ハ磐梨別公ト
イヘリ。
稱徳天皇ノトキ、奸僧弓削道鏡、帝ノ寵ヲタノミ、敢テ帝位
ヲ窺竊スルニ當リ、在廷ノ臣僚、皆道鏡ニ媚ビ、之ニ反抗ス
ルモノ更ニナカリシニ、清麿、獨リ之ニ屈セス、宇佐八幡ニ
至リ、神教ヲ受ケ、還リ奏シテ曰ク、「我が國始まりしこのか

た、君臣の分己に定まれり、臣を以て君とせしことあらず、
 無道ムダウのものは速に誅すべし。」ト遂ニ其非望ヲ遂ゲシメ
 ズ、道鏡大ニ怒リ之ヲ大隅ニ流ス、後赦ニ遇ヒ京ニ歸ルニ
 及ビテ豊前守トナリ、又、美作備前ノ兩國造トナリキ。桓武
 帝ノ朝ニ至リテ、攝津ノ大夫トナリシトキ、攝河ノ界ニ川
 ナ鑿チ、堤ヲ築キテ民ノ便利ヲ圖リ、又民部大輔中宮大夫
 トナリ、皆其職ニ稱ヘリ。薨スル年六十七。正一位ヲ贈ラル、
 祀ラレテ護王明神ト云フ、神社ハ京ノ高雄山ニアリ。
 (五)菅原道真。

菅原道真ハ、參議是善ノ子、幼時ヨリ萬事ニサトク殊ニ學
 問ヲ好メリ、十一歳ノ時、時ヲツクリ、時ノ博士ヲオドロカ
 シ、又十四五歳ノ時、弓ヲヨク射テ人々ヲ感セシメタルコ

トモアリ、桓武天皇ヨリ百年バカリ後ノ大學者ナリ。

宇多、醍醐兩朝ニ事ヘシコト。

天智天皇ノ時、中臣鎌足、大功アリシヨリ、藤原ノ姓ヲ賜ヒ
 其子孫代々大臣トナリテ、天下ノ政ヲ執リ、次第ニ我がマ
 、增長シテ此頃ニ至リテハ、愈々甚ダシカリキ。當時藤原
 氏ニシテ政事ニアツカリシハ、時平トテ年若ク、行ヒ正シ
 カラサル人ナリ。サレバ宇多天皇ハ藤原氏ノ勢ヲオサヘ
 ント思召シ、道真ヲ引キアゲテ、時平ト共ニ政治ヲ執ラシ
 メタマヘリ。

カクテ天皇ハ御位ヲ御子 醍醐天皇ニ譲リ給フ、時平左
 大臣トナリ、道真右大臣タリ、後政ヲ道真ヒトリニ任サン
 トシ給ヒヌ。然レドモ、道真ハ固ク辭シ奉レリ。時平、コノ事

ヲ聞キテ深ク道真ヲ惡ミサマシクニ讒言セシカバ、道具
逐ニ筑前ノ太宰府ニ遷サレタリ。

道真罪ナクシテカ、ル禍ヲカフムリシカド、忠誠ノ情イ
ヨクツヨクシテ、君ヲ思ヒ奉ル心ハ常ニカハラズ、ダ
詩歌ニ心ヲナグサメテ年月ヲ過グシケリ。カクテ三年ホ
ド經テ薨ジヌ。年五十九、後、天皇リノ忠節ヲ念ヒ、之ニ官位
ヲ贈リ給ヘリ、世ノ人マタソノ徳ヲシタヒ、太宰府ト北野
トニ社ヲタテ、天滿天神トアガメマツリタリ。

(六)源義家。

義家ハ賴義ノ子、小字ハ源太、初メ賴義、八幡神劍ヲ賜フト
夢ミ、既ニシテ其妻妊ミテ義家ヲ生ム、年甫メテ七歳、元服
ヲ石清水宮ニ加フ、因リテ八幡太郎ト號ス、武勇人ニスグ

レタリ。

(七)前九年ノ役。

後冷泉天皇ノ御代ニ、安倍賴時トイフ者、其子貞任、宗任等
ト共ニ陸奥(即チ磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥)地方ニ謀反セリ。
ヨリテ義家ノ父、賴義、爾ヲウケテ之ヲ征伐シタリ。義家父
ニ從ヒテ大ニ力戰シタリ。其間九年ヲ經テ、漸ク平ギタリ。
之ヲ前九年ノ役ト云フ。

(八)後三年ノ役。

其後凡三十年ヲ經テ清原武衡、出羽(即チ今ノ羽前、羽後)地
方ニ亂ヲ起シ、カバ、義家、鎮守府將軍ニ任セラレ、之ヲ討
チ平ゲタリ。コノ度ハ三年ニテ事スミタレバ、之ヲ後三年
ノ役ト云フ。

(九)附、弟義光ノコト。

義光ハ元服ヲ新羅明神社ニ加フ、因テ新羅三郎ト稱ス。幼ニシテ弓馬ヲ善クス、長スルニ及ンテ勇ニシテ智謀アリ。左兵衛佐トナリ、京師ニ宿衛ス。兄義家、清原武衡及ヒ家衡ヲ撃ツテ利アラスト聞キ、奏シテ之ヲ援ハンコトヲ請フテ許サレズ。遂ニ官ヲ辭シテ陸奥ニ赴キ、遂ニ義家ニ從ツテ金澤柵ヲ圍ム。既ニシテ城中食乏シクマタ支フルコト能ハス。武衡、義光ニ依リ降ヲ乞フ、義家聽カスシテ之ヲ誅ス。

(一〇)平重盛ノ忠孝。

重盛ハ平清盛ノ長子ナリ。重盛、賢ヒシ孝ナリ、屢父ヲ諫メテ過チテ救ヒ善ニ導ケリ。或ル時、藤原成親等、清盛ノアマ

リニワガ儘ナルヲ憤リテ、窃ニ之ヲ滅ボサンコトヲ圖ル、後白河法皇モ亦之ト御心ヲ通ジ給ヘリ。時ニ密ニ之ヲ清盛ニ告グル者アリ。清盛大ニ怒リ、成親等ヲ捕ヘ、法皇ヲ鳥羽ノ宮ニ移シマキラセントセリ。重盛コレヲキ、テ打驚キ、直ニハセテ六波羅ニ至レハ、清盛、甲冑ヲ着テマサニ宮ニ赴カムントスルトコトヲナリ。重盛コノサマヲ見テ涙ナガラ諫メテ曰ク、「世の中に君の恩より重きはなし、我が一族のもの君の恩を蒙ること較ぶべきものなし、然るにその君にそひき給はゞいかで天罰をのがれん、父君もし御志の程を遠げんと思召さば、先づ重盛を殺して後に行き給へト之ヲキ、テサスガノ清盛モ其ノ事ヲ思ヒ止マリケリ。

(一一) 源賴朝ノ生立。

賴朝ハ源義朝ノ三男ナリ。義朝ノ敗レシトキハ年僅ニ十
三ナリシガ、捕ヘラレテ伊豆ニ流サレタリ。後一心ニ平家
ヲ亡ボシ、父ノ仇ニムケイ、源氏ノ世トナサント志シ、妻ノ
父、北條時政ヲ始メ、近國ノ武士ドモヲ味方ニシテ、遂ニ兵
ヲ伊豆ニ起シヌ。賴朝ハ大軍ヲ引キツレテ駿河マデ攻メ
上リケルル、弟義經モ奥州ヨリ來リ會ヘリ。賴朝ハ深ヲ流
シテ弟ノ來リシヲ喜ビ、スグニ義經ヲ大將トシテ西國ニ
向ハシメ、己ハ鎌倉ニ居テ東國ヲ治メタリ。賴朝已ニ天下
ヲ平ケ、征夷大將軍ニ拜セラレ、將軍ノ役所、即チ幕府ヲ鎌
倉ニ開キテ天下ノ政ヲ執リ行ヘリ。是ヨリ後、殆七百年、今
上天皇ノ御代初メニ至ルマデ、天皇ハ唯位ニ在マスノミ

ニテ政ハ全ク武家ノ手ニアリキ。

賴朝ハ面大ニシテ、丈高カラス、音吐アキラカニ、性沈毅ニ
シテ度量ニ富メリ。常ニ節儉ヲ以テ下ヲ率キ、恩義ヲ忘レ
ズ、凡何事ニテモ、心ニ成シ遂グベシト定メサレバ輕々事
ヲ舉ゲス、故ニ將士畏服セサルハナシ。幼ヨリ種々ノ艱難
辛苦ヲ嘗メテ、遂ニ父祖ノ業ヲ興コシ、天下ニ號令スルニ
至レリ。サレド猶忌ノ心深カリシカバ、己ガ功臣ヲ殺シ罪
モノナキ弟マデモ殺シ、ハマコトニ惜ムベキコトナリ。

(一二) 北條時宗

時宗ハ時賴ノ子ニシテ、幼時ヨリ武藝ヲ好ミ、弓射ルコト
ヲ善クセリ。武勇尤モ世ニスグレタル人ナリ。年十一ノ時
將軍宗尊親王ノ第二子ニテ、小笠原ヲ命セラレシニ、時宗馬ニ

ノリテ其ノ場ニ出テ一發シテ的ニアテタリ。親王大ニ之
サホメ給ヘリ。時政ヨリ第六代ノ執權ナリ。

(二三) 弘安役ノ顛末。

今ヲ距ル七百餘年前即時宗鎌倉ノ執權タル時元主忽心
烈屢々我ニ好ヲ通セムコトヲ求ム、書辭無禮ナリシヲ以
テ、答書ヲモ與ヘサリシカバ、文永十一年(即紀元一千九百
三十四年)元兵三萬來リテ壹岐、對馬ヲカス、尋イデ元使マ
タ來ル、時宗怒リテ之ヲ龍ノ口ニ斬リヌ。元主コレヲ聞キ
大軍ヲ發シテ我が國ヲ攻メシム。

コノ時、龜山上皇ハ、此事ヲ聞コシメシ、大ニ憂ヘ給ヒテ、御
身ヲ以テ國難ニ代ランコトヲ伊勢神宮ニ祈リ給ヘリ。時
宗ハ大ニ費用ヲ省キテ軍資ニアテ、兵ヲ發シテ筑前ノ太

宰府ニソナフ。元兵十萬餘、數百艘ノ兵船ニ乘リテ來リ、先
ツ、對馬、壹岐ヲ侵シ、進ミテ太宰府ヲ攻ム。我が兵ムカヘ討
チテ、之ヲ破ル。其ノ夜、風雨大ニ起リ、我が兵、之ニ乘ジテ擊
チシカバ、賊船コトゴトク破レ、賊、海ニオボレ、生キテ歸リ
シモノ、僅ニ三人、コレヨリ元ノ國マダ來リチカサズ。古ヨ
リコノ方、外國ノ我ニアタセシコト此時ヨリ甚シキハナ
シ。而シテ一戰シテ、コレヲミナゴロシニシ、長ク其ノ患ヲ
絶チシハ、實ニ時宗ノ功ナリ。

(二四) 楠正成。

楠正成ハ河内ノ人ニシテ橋諸兄ノ後ナリ。幼名多聞、後チ
兵衛尉ト稱セリ。性英邁義烈、兵ヲ用フル神ノ如シ。命ヲ受
ケテヨリ赤坂、千窟ノ諸城ヲ築キ、數々奇計ヲ用ヒテ賊ヲ

敗リ、四方正成、風ヲ聞キテ之ニ應スルモノ多ク、遂ニ北條氏ヲ亡シ、建武中興ノ大業ヲ奏セリ。

元弘元年(即紀元千九百九十一年)後醍醐天皇、笠置山ニ幸シ、楠正成ヲ召シ、詔シテ國賊ヲウチ滅ボスヘキヨシヲ仰セサセ給フ。正成、臣が生きて有らんかざりは御心を安うしたまへト奏シ、歸リテ城ヲ赤坂ニ築キ、一族ノ兵五百人許ニテ之ヲ守リ、將ニ天皇ヲ迎ヘ奉ラムトス。時ニ笠置オチイリ、天皇ハ遷サレ給ヒ、賊ミナ赤坂ニ集マリテ圍ミ攻ム。正成ヨク拒ギ戰ヘリ。後、又金剛山ノ千劔破ニ城ヲキヅキテ戰ヒシカバ、其功空シカラスシテ、賊遂ニ亡ホルニ至レリ。

コノ後、足利尊氏叛クニ及ビテ、新田義貞ト力ヲ合セ、屢戰

ヒ大ニ之ヲ破リシカドモ、尊氏フタ、ヒ九州ヨリ攻メノボル、正成、義貞ト共ニ之ヲ湊川ニフセギ、戰ヤブレテ自殺ス。正成、湊川ノ戰ニ赴クトキ、櫻井ノ驛ニ至リ、子、正行ヲ召シテ、汝成、長の後は我が志をつぎて必ず賊を滅ぼし、君の御心をやすめ奉れト諭シテ、河内ニカヘシヌ。時ニ十一歳正行ハ河内ニ歸リシ後、父ノ遺言ヲ忘レスシテ、常ニ子供同士遊ビ戯ムル、ニモ、自ラ大將トナリテ尊氏ヲ斬ルマネナドセリ。カクテ年二十ニ及ビテ、忠義ノ兵ヲ起シタビ、敵ヲ破リケルガ、遂ニ河内ノ四條畷ニ戰ヒテ討死セリ。

當時、尊氏ハ朝敵ノ惡名ヲ遁レンタメ、私ニテ天子ヲ立テ、官軍ト戰ヘリ。世ニ官軍方ヲ南朝ト云ヒ尊氏方ヲ北

朝ト云フ。正行討死シテヨリ南朝日ニ衰へ、遂ニ北朝ト
和睦シ給ヒ、足利氏全國ノ政ヲ執ルニ至レリ。
今上天皇ニ至リ、正成ガ戰死ノ地ナル湊川ニ社ヲ建テ、湊
川神社ノ號ヲ賜ヒ、永ク楠氏一門ノ忠臣ヲ祭ラセ給ヒ、又
正行ガ戰死ノ地、四條畷ニモ神社ヲ建テ、正行等ヲ祭ラ
セ給ヘリ。

(一五) 足利義滿。

足利三代ノ將軍、義隆ノ子。幼名春王ト稱セリ。義滿將軍ト
ナルニ及ヒテ、細川頼之、執事トナリ、心ヲ傾ケテ之ヲ助ケ
シカハ、政事稍々整ヒ天下略定マルニ至レリ。

(一六) 南北朝ノ合一。

此時、南朝ハ後龜山天皇、北朝ハ後小松天皇ナリシガ。義滿

使ヲ吉野ニツカハシテ和睦ヲ乞ヒシニ、南朝ニテモ之ヲ
ユルシ、京都ニ御カヘリアリテ三種ノ神器ヲ北朝ニ傳ヘ
給ヘリ。後醍醐天皇吉野ニ幸シ給ヒシヨリヨ、ニ至ルマ
デ、凡ソ五十餘年ナリ。時ニ紀元二千〇五十二年ナリキ。

(一七) 驕奢ヲ極メシコト。

義滿ハ南北ノ兩朝ヲ合一シテ、數十年來ノ戰爭ヲ止メ、武
士ノ禮儀作法ヲ定メシガ如キ大功アレド、驕奢殊ニ甚ダ
シキ人ニテ、廣大ナル屋敷ヲ京都ノ室町ニ建テ、花ノ御
所ト名ツケタリ。是ヨリ足利氏ヲ室町將軍トイフ。今ノ京
都、西山ノ金閣寺ハ義滿ノ作りタル別莊ナリ。

(一八) 明朝トノ修好。

三代將軍義滿ハ、後小松天皇ノ應永八年、使ヲ明ニ遣ハシ、

金千兩、馬十匹及ヒ兵器扇紙等ノ物ヲ奉リ書辭甚ダ恭シ、
明年明主義滿ヲ封シテ日本國王トナスニ及ビ、義滿喜ビ
テ之ヲ受ケタリ、實ニ國體ヲ辱シメタルモノト云フベシ。
(一九) 織田信長。

織田信長ハ尾張ノ人ニシテ平重盛ノ裔、信秀ノ子ナリ。幼
ニシテ心タケク武事ヲ好ム、豪邁ニシテ英才大略アリ、既
ニ家ヲ繼ギテ尾張全國ヲ統一シ、駿河ノ國主今川義元ガ
駿河、遠江、參河ノ兵ヲ率キテ攻メ來リシヲ、桶狹間ニ拒
テ其首ヲ得テケレバ、此ヨリ其武名天下ニ聞エケリ。
信長勅ヲ奉ジテ西上セシコト。

當時諸國ノ武士皆己ノ勢威ヲミ顯ラントシテ、又一人
ノ皇室ヲカヘリミルモノナク、皇居ハアレハテ、見ルカ

ゲモナキサマナリキ。正親町天皇、信長ノ英名ヲ聞シ召シ、
勅使ヲ信長ニ下シ、託スルニ天下ノ亂ヲ定ムルヲ以テ
シ給フ。信長乃チ沐浴シテ詔ヲ奉ジ、勅使ニ謂ツテ曰ク「吾
聞く天子は天下の君なりと、宜しく吾より臣職を盡すべ
し、今や反りて救命を辱うす吾いかでか天恩に報い奉ら
ざるべき」ト、永祿十一年(即紀元二千二百三十八年)信長大
ニ諸將ヲ會シ、足利義昭ヲ奉ジテ京師ニ入り、近畿ヲ討チ
平ケ、義昭ヲ立テ、將軍トナシ、大ニ皇宮ヲ營ミ厚ク供御
ノ料ヲ奉リ、法令ヲキビシクシ、賦稅ヲユルクシ、ツトメテ
人心ヲ安カラシム、
(二〇) 本能寺ノ變。

信長已ニ諸國ヲ平ケ、其將羽柴秀吉ヲシテ中國ヲ定メシ

メントス。天正十年、秀吉兵ヲ進メテ高松城ヲ圍ミ、水ヲ引
 キテ之ニソ、グ、會々毛利輝元來リ援フ。依リテ秀吉、信長
 ニ親征ヲ請フ、信長乃チ其將、池田信輝、明智光秀等ヲシテ
 先ツ發セシメ、子信忠ト手兵ヲ率キ繼ギテ發シ、京師ニ至
 リ、信長、本能寺ニ館シ、信忠、妙覺寺ニ館ス、光秀嘗テ事ヲ以
 テ信長ヲウラミシガ、此ニ至リ西征ト號シテ兵ヲ徵シ、京
 師ニ入りテ本能寺ヲ圍ム、信長大ニ憤リ、自ラ弓ヲ執リテ
 出デ、戰ヒ、射テ數人ヲ斃ス、既ニシテ近臣皆戰死シ、信長
 火ヲ放チテ自殺ス。信忠モ亦難ニ死ス。是ヲ本能寺ノ變ト
 云フ。

(三二) 豐臣秀吉ノ生立。

秀吉ハ尾張國、愛知郡中村ノ百姓ノ子ニテ、幼名ヲ日吉丸

トイヘリ。其家甚ダ貧シカリケレバ、十二三ノ頃ヨリ他人
 ノ家ニ奉公セリ。身ノ丈ケ短ク、其顔猿ニ似タリケレバ、人
 皆猿冠者ト呼ベリ。成長ノ後、自ラ木下藤吉郎ト名乘リ、織
 田信長ニ奉公シテ草履取ヲ勤メタリ。藤吉郎萬事ニカシ
 コクシテ、又甚ダ正直ナリシカバ、大ニ信長ニ愛セラレテ、
 次第ニ立身シテ、遂ニ一方ノ大將ニ取立テラル、ニ至レ
 リ。天正十四年(即紀元二千二百四十六年)累進シテ太政大
 臣ニ任ジ、姓豐臣ヲ賜フ。

(三三) 明智光秀誅伏ノコト。

秀吉、中國征伐ノ途中ニテ、其主信長ノ本能寺ニ於テ明智
 光秀ノ爲メニ殺サレシヲ聞キ、乃チ實ヲ告ケテ毛利氏ト
 和シ、馳セテ東上シ、逆臣光秀ヲ山崎ニ討チテ之ヲ誅シ、主

ノ仇ヲ報セリ。之ヲ山崎ノ戰ト云フ。

(二三) 朝鮮征伐ノ概略。

秀吉既ニ國內ヲ平定シタルヲ以テ、朝鮮及ヒ明ヲモ攻メ
取り、日本ノ領地トナサムト欲シ、後陽成天皇ノ文祿元年、
兵ヲ發シテ先ツ朝鮮ヲ攻ム、乃チ本營ヲ肥前ノ名護屋ニ
置キ、自ヲ軍事ヲ督ス。加藤清正、小西行長等ノ諸將命ヲ受
ケテ朝鮮ニ渡リ、忽ニシテ其國ヲ攻メ破リ、將ニ明ニ入テ
ントシタリシガ、明主和ヲ請ヘルニヨリテ止ミヌ。然ルニ、
明主ヨリ遣ハシタル書ニ、「汝ヲ封シテ日本國主トナス」ノ
語アリシカハ、秀吉大ニ怒リ、「吾何ぞおびすとももの封を受
けん、且吾日本國王とならば、天皇をいづくに置き奉る
べき」ト、即夜復ヒ征韓ノ令ヲ發ス。諸將復朝鮮ニ至リ、諸城

ヲ陷イレ、此ノ度ハ明ヲモ攻メ取ラントノ勢ナリシカ、不
幸ニシテイクサ中バニ病死セリ。時ニ六十二歳、諸將止ム
ナク一先朝鮮ヲ引キ上ゲタリ。サレド是ヨリ日本ノ武威
マス、海外ニカッヤケリ。

(二四) 徳川家康ノ生立。

徳川家康ハ參河ノ國、岡崎城主、徳川廣忠ノ子ナリ。幼キ時
駿河ニ往キテ、今川氏ニ人質トナリテ艱難ヲ極メタリ。
資性英達ニシテ、仁勇人ニ超ユ、亦軍略ニ通シテ、將帥ノ量
アリ。織田、豊臣二氏ノ亡ビテ後ハ、其威望ナラブモノナク、
關ヶ原ノ一戰ニ、石田三成等ヲ破リシヨリ、遂ニ天下ヲ一
統シ、征夷大將軍ト爲リ、政權ヲニギレリ。幾程モナク、秀頼
ヲ大坂ニ攻メ亡ボシ、後ノ患ヲ絶テリ。コレヨリ諸國ニ大

小ノ諸侯ヲ封ジテ、子孫代々將軍トナリ、十五代二百六十八年ノ間ツ、キタリ。家康一ノ豪族ヨリ起リ、前後四十年ニシテ天下ヲ統一ス、其間具ニ世ノ艱難ヲ嘗メ、最モ下情ニ通シケレバ、政ヲ施シ法ヲ制スルニ民ヲ以テ其心トセサルハナシ。加之朝廷ノ廢典ヲ舉ゲ、文學ノ衰頽ヲ起シ、節儉以テ身ヲ修メ、恩威以テ下ヲ御シ、賞罰明ニシテ、政令公平ナリケレバ、國能ク治リ、民其德ヲ仰ギテ、權現様ト云フ。

(二五)江戸築城ノコト。

秀吉、北條氏ヲ征スルニ當リ、家康之レガ先鋒トナリ、軍功最モ著シ。北條氏滅ブルニ及ビ、秀吉關東八州ヲ家康ニ與ヘシカバ、家康城ヲ江戸ニ築キテコレニ移リヌ。時ニ天正十八年(即紀元二千二百五十年)八月一日ナリ。是レ今日東

京ノ繁華ヲ來シタル初ナリ。

(二六)關ヶ原ノ役。

秀吉死シテ其子秀頼幼少ナリシカバ、家康、其後見シテ天下ノ政事ヲ執リ、秀頼ノ長セルヲ待テリ。然ルニ、秀頼ノ臣、石田三成等、家康ノ勢望ノ日マシニ盛ナルヲ妬ミ、同志ノ諸大名ト謀リ、兵ヲ起シテ家康ヲノゾカント企テタリ。是ニ於テ家康兵ヲヒキキテ石田三成等ノ大軍ト美濃ノ關ヶ原ニ戰ヒテ、大ニ之ヲ破リ、三成等ヲ殺シヌ。是レヨリ天下皆徳川氏ニ歸伏シケリ。故キ之ヲ徳川氏天下分ケ目ノ戰ト云フ。時ニ慶長五年(即紀元二千二百六十年)ナリ。

(二七)大坂冬陣。

秀頼嘗テ方廣寺ヲ造リ、鐘ヲ鑄ル、鐘銘「國家安康」ノ句アリ

テ、家康ノ忌諱ニ觸レ、家康怒リテ之ヲ責ム。豊臣氏ノ臣片桐且元、百方辯スレドモキカズ、此時ニ當リ秀頼ノ生母淀君ニ寵セラル、大野治長等秀頼ニ勸メ兵ヲ舉ゲシム。眞田幸村、長曾我部盛親等浮浪ノ士集ルモノ六萬人、家康之ヲ聞キ藤堂高虎ヲ以テ先鋒トナシ、親ヲ中軍ニ將トシテ發ス、秀忠亦關東奥羽ノ兵ヲ率キテ之ニ繼ク、總兵凡十五萬人進ミテ大阪城ヲ圍ム。家康城ノ容易ニヌキガタキヲハカリ使ヲ遣ハシテ和ヲ講ジ、ソノ城壕ヲウヅメシメテ歸ル。之ヲ大阪冬陣ト云フ、時ニ慶長十九年十月ナリ。

(三八)大阪夏陣。

冬陣ノ和議既ニ成リテ互ニ兵ヲ解キシガ、大阪ノ客兵ハ衣食ヲ得ベキ所ナキヲ以テ、更ニ再舉テ秀頼及淀君ニ勸

メシカバ、元和元年二月秀頼密ニ兵ヲ募リテ十五萬人ヲ得タリ。家康兵ヲ出シテ之ヲ圍ムコト去歲ノ如シ。時ニ治長、淀君ノ寵ヲ恃ミテ驕恣ナリ、軍議爲メニ屢變シ、將士皆和セス、東軍進ミテ城ヲ圍ミ、火ヲ放チシカバ、秀頼、淀君、治長等皆自殺シテ事平ケリ、之ヲ大阪夏陣ト云フ。

(三九)日光廟。

豊臣氏亡ビ、徳川氏ノ世トナリテ、十五代二百六十餘年ノ泰平ヲ來スベキ基ヲ開ケル。家康八年七十五ニシテ死シケルガ、後ニ東照宮トウヤマヒ祭ラレテ、今モ處々ニ其社多シ。下野ノ日光山ニアル宏大美麗ナル宮殿ハ、即チ此家康ノ廟ナリ。

(三〇)徳川光圀ノ性行。

徳川光圀ハ水戸藩主頼房ノ三男ニシテ、家康ノ孫ナリ。生
レテ英才アリ、勇氣人ニ勝レリ。年漸ク長ズルニ及ビ學問
ヲ好ミ、多クノ書籍ヲ讀ミ、ヨク文章ヲ作レリ。光圀尊皇ノ
志厚ク、常ニ心ヲ用キテ天下ノ弊ヲ除カントセリ。ソノ平
生士民ニ教フル所ニ曰ク「吾ガ國ノ君は 天皇なり。將軍
ハ吾ガ宗家にして、政權を預リ奉る者なり」ト正月元日ニ
ハ必衣冠ヲ着ケテ京都ノ方ニ向ヒ、遙拜スルコト老ニ至
ルマデ怠ラサリキ。

(三二)光圀文學ヲ振起セシコト

光圀英明ニシテ學ヲ好ミ、明朝ノ遺民朱舜水ヲ聘シテ大
ニ國藩ノ文學ヲ振起シ、又大ニ我が國ノ古籍ヲ集メ、學士
ヲシテ大日本史等ノ書ヲ作ラシメタリ。

(三三)大日本史ノ編輯

光圀夙ニ我が朝ノ歴史ノ散逸センコトヲ憂ヘ、慨然トシ
テ修史ノ志ヲ起コシ、多クノ學者ヲ招キ、彰考館ヲ設ケテ
大日本史二百餘卷ヲ撰バシメタリ。其君臣ノ大義ヲ明ニ
シ、名分ノ重キヲ示シ、天下ヲシテ皆 皇室ヲ尊ムコトヲ
知ラシメタルモノ實ニ大功ナリ。

(三四)淺川建碑ノ事

光圀深ク楠氏ノ忠義ヲ感ジ、碑ヲ攝津ノ淺川ニ建テ、其碑
面ニ書シテ「嗚呼忠臣楠子之墓」ト云ヒ、裏ニ明人朱舜水ノ
文ヲ刻ミテ永ク楠氏ノ芳名ヲ世ニ傳ヘタリ。

(三五)松平定信

松平定信ハ陸奥白河ノ城主ナリ。父ハ田安宗武ト云ヒテ

八代將軍吉宗ノ子ナリ。幼少ノ時ヨリ學ヲ好ミ、奮發勉勵シテ心ヲ文武ノ兩道ニ專ニシタリ。十三歳ノ時、嘗自教鑑トイヘル書ヲ著シ、君臣父子ノ事ヨリ、夫婦兄弟ノ間柄ニ至ルマデ、委シク教訓ヲ述ベタリ。父宗武之ヲ見テ、梅檀ハ二葉より芳しトテ直ニ史記評林一部ヲ與ヘテ之ヲ賞セラレタリト云フ。定信晩年職ヲ辭シテ樂翁ト號シ、文筆ヲ玩ビテ自娛メリ。其文章重ニ國文ニシテ、頗妙味アルモノ多シ。文政十二年、歳七十二ニテ卒ス。

(三六) 弊政ノ改革。

定信、國政ヲ治ムルニ極メテ節儉ヲ行ヒ、且封内ノ租稅ヲ寬ニシ、其身ハ常ニ澣濯セシ衣服ヲ着ケ、食ハ一汁一菜ニ止メキト云フ。定信ノ幕府ノ老中トナリタルトキモ、大ニ

冗費ヲ省キ、武備ヲ修メ、海内奢侈、遊怠ノ風ヲ矯正シタリ。故ニ治績大ニ顯ハレ、賢素ノ風盛ニ行ハレタリ。

(三七) 井伊直弼。

直弼ハ近江彦根ノ城主、小字鐵三郎、中將ニ任セラレ、後掃部頭ト稱ス、直中ノ十四男ナリ。

(三八) 米艦ノ渡來。

嘉永六年(即紀元二千五百十三年)六月北亞米利加、合衆國ノ水師提督「ペルリ」兵艦ヲヒキキテ浦賀ニ來リ、開港貿易ヲ勸ム。時ノ主上ハ孝明天皇ニシテ、將軍ハ家慶ナリ。幕府使ヲ遣シ諭シテ去ラシメントシタリシカド聽カズ。因リテ明年長崎ニ於テ其請求ニ答ヘンコトヲ約シテ去ラシム。明年即安政元年ヘルリ再ヒ來リテ去歲ノ答書ヲ求ム。

幕府乃チ下田、箱館、長崎ノ三港ニ泊スルヲ許ス。
(三九)假條約。

安政三年(即紀元二千五百十六年)米使ハルリス來リ、將軍家定ニ謁シテ通商ヲ請フコト甚ダ切ナリ。幕府之ヲ天朝ニ奏シ勅許ヲ待ツ、朝議之ヲ却ク、因リテ辨論往復ノ間ニ二々年ヲ經タリ。會々家定薨ジ、家茂(十四)繼キ立ツ、年甫メテ十二、井伊直弼、大老タリ。安政五年直弼、遂ニ勅許ヲ待タスシテ長崎、箱館、兵庫、新潟、神奈川ノ五港ヲ開キ、米國トノ貿易ヲ許シテ條約ヲ結ブ。之ヲ假條約ト云フ。

(四〇)櫻田ノ變。

井伊直弼、世論ノ惡クテ願ミズ、勅許ヲ俟タスシテ條約ヲ結ビ、其反對者即チ公卿諸侯以下志士數百人ヲ罰シタルヲ以テ、天下ノ志士、皆直弼ノ處置ノ越權不禮ヲ怒リテ、益々騒ギ立テタリ。萬延元年三月三日、水戸ノ浪士大關和七、師等、憤激ノ餘リ、同志ノ士ト共ニ櫻田門外ニ於テ、大老直弼ノ出仕ヲ待受ケテ殺シタリ。

(四一)長州征伐。

長藩ノ老臣ドモ其ノ主人ノ寵責セラレシヲ怒リ、時ノ京都守護職松平容保(會津侯)ヲ除カントテ兵ヲヒキテ入京セシカバ、會津ノ兵防ギ戰ヒテ蛤御門ニテ激戰シ、大ニ之ヲ破リテ逐ヒシリゾケタリ。幕府ハ長州藩ノ此ノ罪ヲ鳴ラシ、諸藩ニ命シテ征伐セシム、藩主罪ヲ謝シテ事止ミヌ。時ニ其ノ家臣高杉晋作等之ヲ不可トシ、主人ヲ奉シテ兵ヲ擧グ、幕府再ビ之ヲ征伐セシガ、折柄將軍家茂途ニ薨

ジタマヒケレバ、軍ヲ止メケリ。是ヨリ將軍家ノ勢大ニ衰ヒタリ。

(四二)王政復古。

初ノ幕府ノ長州藩ヲ伐ツヤ、長州藩ソノ罪ニ服セズシテ兵ヲ擧グ。而シテ薩摩藩士、西郷隆盛、大久保利通等藩論ヲ定メ、長州藩ノ木戸孝允等ト謀リ、薩長ノ好ミヲ通ジ、幕府ニ抗ス。幕府ノ軍之ニ勝ツ能ハズ。尋イテ將軍家茂薨ジ、孝明天皇モ亦崩御アラセラルタルヲ以テ、長州征伐ノコトモ亦自ラ止ミヌ。慶應二年將軍慶喜(十五)遂ニ大政ヲ奉還センコトヲ奏シ請フ。朝廷之ヲ許ス。是ニ於テ政權マタ朝廷ニ歸ル。此レ實ニ今上天皇御即位ノ初メニシテ、源賴朝以來七百年間

(四三)西南ノ役。

武人ノ握リタル政權ヲ收メ、萬機御親裁ノ昔ニ復シ給ヒヌ。コレヲ王政復古ノ御世ト云ヒ。又維新ノ御世ト云フ。已ニシテ慶喜官軍ニ抗シ、伏見、鳥羽ニ戰ヒ、敗レテ江戸ニ走ル。官軍之ヲ征ス、慶喜恭順シ城ヲ致ス、江戸マツ平グ。而シテ其ノ家臣等會津藩ノ軍ニ合シテ官軍ニ抗セシガ、官軍又之ヲ破リ、關東奥羽ノ亂定マル。獨リ榎本謙次郎等函館ニ據リテ屈セサリシガ、明治二年遂ニ官軍ニ降リ内亂全ク平定セリ。尤功勞アリシハ公卿ニテハ三條公、岩倉公、等、志士ニテハ西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、江藤新平等ナリ。

維新ノ初メ、朝廷使ヲ朝鮮ニ遣シテ舊交ヲ修メントセシ

ニ朝鮮之ニ禮セズ。明治六年、參議西郷隆盛、江藤新平、副島種臣、後藤象次郎、板垣退助、陸軍少將桐野利秋、篠原國幹、等征韓論ヲ起シ、ニ用キラレズ、隆盛等遂ニ官ヲ辭シテ歸國ス。翌年新平亂ヲ佐賀ニ起ス、官軍討チテ之ヲ平ク。十年利秋、國幹等、隆盛ヲ推シテ主將トシ、兵ヲ鹿兒島ニ舉ケ、將ニ九州ヲ徇ヘ、東國ニ上ラントシ、先ツ肥後ノ熊本鎮臺ヲ圍ム。司令長官陸軍少將谷干城固ク守リテ動カズ。賊其拔クベカラサルヲ知リ、兵ヲ分チテ北ノ方、筑後ニ向フ、朝廷乃チ隆盛等ノ官位ヲ削リ、有栖川煇仁親王ヲ征討大都督トシ、諸軍ヲ率キテ之ヲ征セシメ、植木、田原ノ諸險ヲ破リ、終ニ賊軍ヲ鹿兒島ニ窮追シテ之ヲ滅シタリ。隆盛以下皆誅ニ伏ス。之ヲ西南ノ役ト云フ。

(四四) 征清ノ役。

明治二十七年ノ春、朝鮮國ニ内亂アリ、我が政府ハ共ニ力ヲ協セテ朝鮮ノ内治ヲ改メシメムコトヲ清國ニ協議セシニ、清國ニテハ應セズ、却テ朝鮮國ハ清國ノ屬邦ナリト云ヒテ、朝鮮國ノ獨立ヲ危フセムトスルヨリ、天皇陛下宣戰ノ大詔ヲ下シ、清國征伐ノ事ヲ命ジタマヘリ。是ヨリ先、我が軍艦、吉野、浪速、秋津洲ハ豊島沖ニテ清艦濟遠、廣乙ト行遇ヒウチテ之ヲ走ラシ、次ギテ來レル運漕船ヲ沈メ、操江號ヲ捕獲セリ、又龍山ニアル陸軍ハ牙山ノ清兵ヲウチテ潰走セシメタリ。

九月十三日、天皇陛下大本營ヲ廣島ニ進メサセ給フ。清兵牙山ニ敗レテヨリ平壤ニ屯集ス。我軍之ヲ合撃シ、二

日ヨシテ全ク陥レタリ。同時ニ海洋島沖ニテモ亦大海戰アリ、情態定遠、鎮遠以下スベテ大艦ノ來ルニ會ス。我が艦隊之ト激戰、凡五時間許ニ敵艦ヲ擊沈スルモノ四艘、其餘ヲ傷害シテ大勝ヲ得タリ。平壤ノ大捷以後、清兵ヲ悉ク朝鮮ノ境外ニ追ヒ斥ケ、虎山、鳳凰城、九連城ニ進ミタリ、時ニ第二軍ハ花園河口ヨリ上陸シ、直ニ金州城ヲ陥レ、大連灣ヲ略取シ、是ヨリ南進シテ旅順口ノ背後ニ進シ、砲臺ヲ合擊シテ悉ク之ヲ陥レタリ。是ヨリ諸將金州ニ還リ、第一軍ト共ニ北進シ、柞木城、海城、蓋平、寬甸縣等ノ敵兵ヲ掃蕩ス。廿八年一月第二軍ノ一部ハ山東省、榮城縣ニ上陸シ、直ニ威海衛ノ背後ヲ衝ク、陸上ノ砲臺悉ク陥リ、獨劉公島ノ砲臺獨堅固ナリ。我が水雷艇隊ニ夜ニ乗ジテ入り、敵ノ諸艦

破碎ス。是ニ於テ北洋艦隊全滅セリ。時ニ第一軍ハ營口ヲ占領シ、牛莊ヲ略取ス。又海軍ハ臺灣ニ向ヒテ進ミ、澎湖島ヲ占領セリ。二十八年ノ夏ニ至リ、遼東半島及ヒ臺灣澎湖列島ヲ割キ、償金貳億兩ヲ出サシメテ和ヲ許セリ。其後露西亞、獨逸、佛蘭西ノ三國ノ忠告ヲ容レ、遼東半島ヲ清國ニ還付シ、其報償三千萬兩ヲ得テ全ク局ヲ結ベリ。是ニ於テ天皇陛下ハ五月三十日ヲ以テ凱旋シ給フ。

理科

第一、蕨、薇、椎茸、海苔、昆布

(一)蕨、薇、共ニ花ノ咲カザル植物ニシテ山野ニ生ズ。四五
月頃、其ノ嫩芽ヲ採リテ食用ニ供ス。味佳シ。又、蕨ハ其ノ根ヨ
リ澱粉ヲ製シ出シ、其ノ筋ヲ繩ニ造ル。此ノ蕨ノ如キヲ羊齒
類トイフ。

(二)椎茸。深キ山ノ椎ノ古木ニ生ズル茸ナレバ、亦、人工ヲ
加ヘテ椎、櫛ノ丸太ニ生ゼシム。香味共ニ佳キヲ以テ上等ノ
料理ニ用キラル。乾シタルモノハ久シク貯フルコトヲ得ベ
ク、其ノ上ニ風味モ大ニ美ナリ。

(三)海苔。川ニモ生ズレバ、多クハ海ノ淺キ所ニ柴ヲ立テ

テ之ニ生長セシム。冬ノ間之ヲ採リテ乾海苔ニ製ス。淺草海
苔ハ其ノ名高シ。

(四)昆布。色黒クシテ青ミアリ。其ノ形ハ厚サ極メテ薄ク
二三分ヲ過ギザレバ、幅廣クシテ長サ一丈餘リアリ。其ノ質
柔カナリ。全體葉ノ如クナルモ、脈モ莖モ枝モ花モアラズ。根
ハ岩ニ着ケルモ直根ニモ鬚根ニモアラズ。寒キ海ニ生ズル
藻類ニシテ北海道ノ名産ナリ。之ヲ乾シテ食用ニ供ス。

第二、顯花植物、隱花植物

(一)顯花植物。櫻、梅、桃、菜、栗、柿、稻、豆ノ如キ何人ノ目ニモ見
ユル花ヲ開クモノハ元ヨリ松、竹、杉ノ類モ花ヲ開クヲ以テ
コレ等ヲ總稱シテ顯花植物ト云フ。
(二)隱花植物。忍草、蕨ノ如ク正シキ花ノ開カザルモノヲ

總稱シテ隱花植物トイフ。羊齒類、苔類、昆布、海苔、茸ノ類ハ皆
隱花植物ノ内ナリ。

第三、草棉、大麻、楮、漆、桑

(一)草棉。四月種子ヲ蒔キテ培ヘバ八月頃ヨリ黄花ヲ開
キ桃子ノ如キ實ヲ生ズ。其ノ實熟スレバ裂ケテ綿絮ヲ吐キ
出ス。之ヲ採リテ綿ヲ製シ糸ト爲シ布ヲ織ル用ニ供ス。

(二)大麻。四月頃種子ヲ蒔ケバ八月頃ニハ生長シテ五六
尺ノ高サトナル。幹直クシテ節ナク、枝ハ上部梢近キアタリ
ニノミアリ。葉ハ楓ノ如キ形ニシテ更ニ大ナリ。八月頃刈リ
採リテ日光ニテ乾シ次ニ水中ニ浸シテ皮ヲ柔カニシテ之
ヲ剝ギ更ニ外皮ヲ除キテ麻ヲ得ルナリ。麻ハ織物及ビ綱、綱
等ニ供スル功大ナリ。

(三)楮

葉、幹、根ナドハ桑ニ似タレモ雄花ト雌花トハ株ヲ
異ニスル所、同ジカラズ。年々刈リ取ルヲ以テ五六尺ニ過ギ
ズ。此ノ幹ノ皮ヲ以テ紙ヲ製ス。先ヅ皮ヲ剝キテ之ヲ打チ更
ニ灰水ニテ煮テ柔カニ爲シ、之ヲ水ニ浸シテ能クカキ混ゼ
タルヲ篋ニテ抄ケバ紙ヲ得ルナリ。紙ハ古布片ノ類、又ハ他
ノ植物ノ皮等ニテモ製スレドモ薄クシテ且ツ強キハ楮ノ
皮ニテ製スルヲ第一トス。

(四)桑

葉ノ縁ニ鋸齒ノ如キ大小ノ刻ミアリ。互生葉ナリ。
花ハ細ニアツマリテ、春ノ末ニ開ク。實ハ夏ノ初メニ熟シテ、
紫色トナル。山野ニ自生スルハ葉小サク實多シ。畑ニ作ルハ
葉大キクシテ裂ケ形ノ小ナルモノ多ク、且ツ實ヲ結ブコト
少シ。葉ハ蠶ノ食料トシテ必要ナリ。材ハ堅クシテ美シケレ

バ細工ニ用キ、皮ハ紙ヲ造ルベシ。

(五)漆樹。一丈餘リニ丈位ノ高サニ生長スル樹ナリ。一ノ葉莖ニ多クノ小サキ葉ヲ着ク。枝ハ太クシテ疎ナリ。花ハ房ノ形ニテ細ニ實モ亦小ナリ。幹ヤ枝ヲ鋸ノ如キモノニテ傷クルルハ白キ汁出ヅ。時ヲ經レバ黒クナル。此ノ汁ヲ精製シテ漆汁ト爲ス。塗リテ漆器ヲ製ス。實ハ絞リテ蠟ヲ採リ蠟燭ヲ造ル。材ノ太キモノハ板ト爲シテ細工ノ用ニ供ス。

第四、植物機關

(一)根。油菜、胡蘿蔔、午莠ノ如ク眞直ニ地中ニ在ル根ヲ直根トイフ。又、稻、麥ノ如ク細キ根ノミ幾本モ分レ出ヅルヲ根トイフ。草木ノ根ノ形ハ種々アレレコノ二類ノ大別ニスギズ。

又、根ニハ瓜、茄子、牽牛花ノ如ク、一年ニテ枯ル、ト、油菜、大豆ノ如ク二年目ニテ枯ル、ト、櫻、梅、松ノ如ク幾十年幾百年モ生活スルモノト別アリ。

根ハ草木ヲ支エテ地上ニ立タシメ、又地中ヨリ養ヒトナルベキ汁ヲ吸ヒ上グル働キヲナス。

(二)莖幹。莖ハ根ヨリ出テ、地上ニ立チテ枝ヲ分チ葉、花ヲ生ズ。根ヨリ吸ヒ上ダタル養ヒハ莖ヲ通リテ葉ニ上ルナリ。莖ノ大ナルコト木ノ如キヲ幹トイフ。

莖幹ハ大概地上ニアレバ又、蓮ノ如ク泥中ニ横ハルモノモアリ世人誤テ之ヲ根トナセバ其ノ所ヨリ葉、花ヲ生ジ又、根ヲ出スヲ以テ見レバ莖タルコト明ナリ。竹、葦ノ地中ニアル節モ同ジク莖ナリ。甘藷、馬鈴薯、慈姑、等ノ食スベキ所モ莖ニ

屬スルナリ。

松、櫻等ノ幹ハ年々ニ太サヲ増シテ生長ス。中央ニ髓トイフ。柔カナルモノアリ。外部ニ皮アリ。其ノ髓ト皮トノ間ニ堅キ材アリ。材ハ一年ニ一輪ツヽノ木理ヲ増シテ生長ス。建築細工薪炭ニ供スルハ皆材ナリ。

(三)葉。

莖ノ上ニ在ル綠片ヲ葉トイフ。葉ノ枝ニ着ク所ヲ葉柄トイヒ、葉柄ノ上ニ在リテ廣ガレル所ヲ葉片トイフ。葉柄ノ長キ蓮ノ如キ、莖ノ如キモノアリ。短キコト菜ノ如ク、萬年青ノ如キモノアリ。又稻、茅ノ如ク葉柄ニテ莖ヲ包ムモノモアリ。

葉片ニハ梅、櫻等ノ如クニ網ノ如キ筋アルモノト麥ナドノ如クニ縦ニ並ベル筋アルモノトノ別アリ。依リテ網脈葉、並

行脈葉ノ二別トス。

又、葉ニハ桃、櫻ノ如ク一片一片ニ枝ニツクモノアリ。之ヲ單葉トイヒ、豆、藤ノ如ク一ノ葉柄ノ上ニ更ニ分レテ小葉柄ヲ出シテ多クノ葉斤ヲツクルモノヲ復葉トイフ。

葉ニハ表ニモ裏ニモ氣孔トイフ小サキ穴多クアリ。此ノ氣孔ハ日光ノ助ケヲ借リテ炭酸瓦斯ヲ吸ヒ取り根ヨリ上レル汁ト合シテ體ヲ養フ働キヲ爲シ、酸素ヲ吐キ出ス。草木ノ空氣ヲ清メテ人ノ健康ニ益ヲ與フルトイフハ此ノ作用アルガタメナリ。

葉ハ秋ニ至リテ黃紅トナリ枯レ落ツル櫻、漆樹ノ如キアリ。冬モ猶綠ニシテ枯レザル葉ヲ有スル松、杉ノ如キアリ。四時共ニ葉アルヲ常綠樹トイフ。然レモ舊キ葉ハ次第ニ枯レ落

チ新ラシキ葉ハ次第ニ生ズルナリ。

(四)花。植物ノ花ヲ開クヤ葉腋ニスルモノアリ。莖頂ニスルモノアリ。其ノ色ヤ形モ種々アリト雖モ皆種子ヲ結ブノ用ヲナス。

牽牛花ノ花ニツキテ花ノ部分チイヘバ葉腋ヨリ出テタル莖ハ花梗ナリ。其ノ上ニアル裂ケ目アル皿ノ如キモノハ萼ナリ。其ノ上ニアリテ美ナルハ花冠ナリ。花冠ノ下部ニツキテ生ゼル倒シマニシタル矢ノ如キモノハ雄蕊ナリ。中央ニ在リテ上部ハ玉ノ如ク下部ハ少シクフクラミテ棍棒ノ如キモノハ雌蕊ナリ。
花冠ハ又花瓣トモイフ。牽牛花ハ花瓣一ナレモ梅花ハ五瓣ナリ。更ニ又多クノ瓣ヲ有スルモノアリ。

萼ハ花ヲ守ルノ用ヲ爲シ。花冠ハ花ノ内部ヲ守ルト蜂蝶ヲ引キヨスルトノ用ヲナス。蜂蝶ノ花粉ヲ此ヨリ彼ノ花ニウツシ送ルハ實ヲ結フニツキテ大ナル助ケトナル。
雄蕊ノ細キ所ヲ花糸トイヒ其ノ上ニアル囊ヲ蒔トイフ。蒔ハサケテ花粉ヲ出ス。花粉ハ實ヲ結フ爲メニ必要ナリ。
雌蕊ノ末ヲ柱頭トイヒ其ノ下ノ細キ所ヲ花柱ト云フ。花柱ノ下部ノ太キ所ハ子房ニシテ後ニハ實トナル。
植物ニヨリテハ右ノ如キ完全ナル花ヲ有セズ或ハ萼ノナキモノアリ。或ハ花冠ノナキモノアリ。或ハ雌花ト雄花ト別ナルモノアリ。又、大麻、銀杏ノ如ク雌木、雄木ト其ノ樹ヲ別ニスルモノアリ。

(五)實。實ハ雌蕊ノ成長シタルモノナリ。又石榴ノ如ク萼

ガ其ノ皮トナリタルモノアリ。又、梨ノ如ク子房ト葉ノ一部トガ實トナルモノアリ。果實ハ人ノ食用トシテ賞セラル、モノニシテ又、植物其ノモノ、タメニハ其中ニアル種子ヲ守リテ寒暑ヲフセギ、又種子ガ芽ヲ出ス時ニハ養ヒテ送ル用ヲナス。

果實ハ大概、外皮、肉、種子ノ三部アリ。梅、桃ノ食スヘキ部ハ肉ニシテ其ノ中ニアル堅キモノハ核、其ノ中ニアルモノハ種子ナリ。

銀杏、胡桃ノ食スヘキ所ハ核ノ中ニアル種子ナリ。更ニ又詳シク云ヘバ米、麥ノ食用トスル所ハ胚乳ニシテ豆ノ食料トナル所ハ子葉ナリ。

(六)種子。種子ハ種皮、胚乳、子葉、幼芽ノ四部ヨリ成レルヲ

常トスレバ胚乳ノナキモノモアリ。

豆ヲ濕地ニオキテ後ニ見ヨ、種皮先ヅヤブレテニツニ分ル、片アリ。之レ子葉ナリ。其ノ中ヨリ外ニ出ツル芽アリ之レ幼根ナリ。子葉ニ、ハサマレタル芽ハ幼芽ニシテ生長スレバ莖トナル。

玉蜀黍、稻、麥ニハ種皮ノ中ニ胚乳アリ、其ノ傍ニ一ノ子葉ト一ノ幼芽トアリテ、幼根之レニ連ルヲ見ル。

(七)雙子葉類、單子葉類。植物ガ種子ヨリ生ヘル片ヲ見ルニ二ノ子葉アルモノアリ、之ヲ雙子葉類トイフ。豆、桃等ノ類之レナリ。又、稻、麥ナドノ如ク一ツノモノアリ。之ヲ單子葉類トイフ。

雙子葉類ハ根ハ直根、葉ハ網脈、幹ハ輪ノ木理ヲ爲シテ外方

ヨリ尾ニ至ルマデ脊骨アルヲ以テ有脊椎動物トイフ。
有脊椎動物ニ屬スルモノハ左ノ如シ。

- 有脊椎動物
 - 哺乳類 犬、猫、猿、狼、狐ノ類
 - 鳥類 鶏、雀、燕、鶴、雁ノ類
 - 爬虫類 蛇、龜ノ類
 - 兩棲類 蛙ノ類
 - 魚類 鯉、鮒、鰻、鯛、鮫ノ類

(二)無脊椎動物。 蛭、烏賊、文蛤、蜂ナドニハ脊骨ナキヲ以テ
無脊椎動物トイフ。 無脊椎動物ニ屬スルモノハ左ノ如シ

- 無脊椎動物
 - 軟體動物 章魚、烏賊、蝸牛、蛤ノ類
 - 多節動物 蠶、蜂、蝶、蜻、蛉、蜘蛛、蟹ノ類
 - 多肢動物 珊瑚、海膽、水母ノ類

原生動物 海綿ノ類

有脊椎動物ニ皆赤キ色ノ血アレトモ無脊椎動物ハ赤キ血
ヲ有セズ。

哺乳類、鳥類ハ體ニ温カナル血アルヲ以テ温血動物ト云フ。
其ノ温度ハ夏モ冬モ變ルコトナク、一定ノ温度ヲ保ツ。
蛇、蛙、魚類其ノ他、章魚等ノ類ハ體ニ温カナル血ナキガ故ニ
冷血動物トイフ。其ノ温度ハ氣候ノ寒暑ニ從ヒテ變ル。

第七、花崗石、石板石、石英、陶土、粘土

(一)花崗石。 水晶ト同シ類ナル石英、銀色ノ光ヲナス雲母
白色又ハ灰色ナル長石、ノ三種ヨリナレル岩石ナリ。強キ火
ニアフ片ハ破裂シ易キヲ以テ甕等ニハ造ルヲ能ハザレバ
其質極メテ堅硬ニシテ風雨霜雪等ニ堪ユル力強ク建築用

ノ材トシテハ石材中第一ノモノトス。

(三)石 板石、我等ノ用キル石盤ハ即チ石坂石ナリ。此ノ石ハ粘土ガ自然ニ固マリテ生シタルモノニシテ、板ノ形ヲ爲シ、機重ニモ重ナリテ存在ス。硯ヲ造リ、又屋根ヲ葺クニ用キラル。

(三)石 英、其ノ色形ニヨリテ水晶、燧石、砂ナドノ名アレヒ。皆、硅酸トイフモノヨリ成レル、水晶ノ類ニシテ即チ石英ナリ。

水晶ハ六角柱ノ形ニシテ其ノ透明ナルコトハ硝子ノ如シ。此ノ如ク自然ニ規則正シキ形ヲ有スルモノヲ結晶體トイフ。

水晶ハ無色ノモノノミニアラズ、黒色ノモノ、紫色ノモノ、紅

色ノモノアリ。大ナルモノハ玉、花瓶、眼鏡等ヲ造ル。

又水晶ノ類ニシテ瑪瑙トイフモノアリ。質堅クシテ赤黄白等ノ色相雜ハリテ紋理ヲナス。種々ノ飾ニ造ル。

硝子ヲ製造スルニ用キル品ハ砂、燧石ナリ。

(四)陶 土、粘土ハ長石ノグツレテ土トナリタルモノ

ニテ其ノ色、多クハ赤黄ナリ。此ノ土ハ壁ヲ塗リ、窯ヲ築キ瓦ヲ造ル等ニ用キラル。

陶土ハ粘土ノ更ニヨキ品、他物ノマザリナキモノニシテ、多クハ白色ナリ。此ノ土ハ陶器ヲ造ルニ用キラル。先ヅ此ノ土

ヲ粉ニ爲シ之ニ白キ砂石灰ナドノ粉、少シヲ入レ、ヨク練リ

混ゼテ茶碗皿等思ヒノマ、ノ形ヲ造リ、日蔭ニ乾シテ後、窯ニ入レテ燒ク之ヲ素燒トイフ。之ニ模様ヲツケ、釉藥ヲ塗リ

再、此類ニ入レテ焼ケハ美シキ陶器トナリ。陶器ハ我が國ノ
名高キ産物ナリ。

第八、岩石類。

花崗石、砂板石、粘土等ヲ總稱シテ岩石トイフ。岩石ハ地球ノ
殼トモイフベキ部分ヲ爲ス。

地球ハ其ノ初メハ火ノ球ナリキ。其ノ冷エテ固マリタル岩
石ハ火成岩ナリ。故ニ其ノ岩石ヨリ下ハ今モ熱アリテ
甚ダ強シ。

其ノ岩石ガ長キ間。風雨霜雪ニアヒ次第ニクツレテ粉トナ
リ水ニ流サレテ積ミ重リ幾千萬年モ經ルヤ、更ニ又、其ノ上
其ノ上ト重リ其ノ重ミニテ固マリテ岩石トナル。之ヲ水成
岩トイフ。

故ニ土地ハ火成岩アリテ、其ノ上ニ水成岩アリ。其ノ狀恰モ
疊テ重ネタルガ如キ層ヲナス。之ヲ地層トイフ。地層ハ元ト
平カニ出來タルモノナレバ地震等ノ爲メニ次第ニ傾キテ
生セルモノ多シ。

水成岩、火成岩ガ雨霜等ノ爲メニクツレテ粉トナリ、終ニ土
トナリ草木等ノ腐レト混シテ土壤ト成ル。土壤ハ植物ノ生
長ニ必要ナルモノトス。

第九、金、銀、銅、鐵、鉛、アンチモン、亞鉛、水銀、硫黃。

(一) 金。黄色ニシテ美シキ光アリ故ニ黃金トイフ。柔ニシ
テ重ク水ノ重サノ十九倍アリ。純金ノマ、出ツルコトアレバ
多クハ銀銅等ノ礦石等マシリテ出ツ。又、砂中ヨリ出ツル砂
金トイフモノアリ。

金ハ打チテ極メテ薄キ箔トナスベク。又、引キ延バシテ細キ線ト爲ス。トナ得。火ニ熔ケガタク鋪ブルトナク、且ツ出ツルト少キヲ以テ、金屬中ニテ最モ貴キモノトシ、貨幣及ビ種々ノ貴キ飾ニ用キラル。

純金ハ其ノ質アマリニ軟カナルヲ以テ物ヲ作ルニハ必ズ銀又ハ銅ヲ混セテ用キルナリ。

(三)銀。白クシテ美シキ光澤アリ、金ヨリヤ、堅ク重サハ水ノ十一倍ナリ。純ニテ出ヅルトモアレ、多クハ銅、鉛、硫黄等ノ雜ニ混ジテ出ヅ。打チ延バシテ箔ト爲スベク線トナスベク、又粉トナストナ得。タヤスク火ニ熔ケザルト鑄ビザルトハ金ノ如シ。然レモ硫黄ノ氣ニ觸ルレバ忽チ黒色トナル。其ノ質柔ナルニヨリ、物ヲ造ルニハ幾分カノ銅ヲ混ズ。貨幣

醫者ノ器具、其ノ他イロ／＼ノ金具ニ造ラル。價ハ大凡金ノ二十分ノ一ヲ過ケルコトナシ。

(三)銅。純粹ノマ、ニテ岩ノ間ニ在ルコトアレ、多クハ他ノ雜ニ混ジテ出ヅルヲ常トス。銅ハ其ノ色赤クシテ磨ケバ甚ダ美ナリ。其ノ質柔ニシテ細工ヲ施シ易キガ故ニ利用ノ道極メテ廣ク貨幣ノ外、日常ノ家具又ハ箔、線トシテ用キラレ、又、板トシテ用キラル。

其ノ他、銅ノ用ノ大ナルハ他ノ金屬ニ合セテ混金ヲ造ルコト極メテ便ナルニアリ。

(四)鐵。鐵ハ多量ニ産ズルニヨリ、其ノ價ハ廉ナレ、利用ノ廣大ナルコトハ金屬中ノ第一ナリ。鐵ハ大概鐵礦ヨリ採ルヲ常トスレ、又、砂ト共ニ存スル砂鐵トイフアリ。

鐵ニハ鑄鐵、鍛鐵、鋼鐵ノ三種アリ。
 鑄鐵ハ鐵鑄ヨリ採リタルマ、ニテ未ダ鍛ヒザルモノ質堅
 ケレハ脆シ故ニ延バステ能ハズ。再ビ熔カシテ鑄、釜、門柱、水
 道管等ヲ造ルノ料トス。
 鍛鐵ハ鑄鐵ヲ鍛ヒタルモノニシテ煖ケガダキモ熱スレバ
 打延バシ、又、鍛ヒ合ストチ得、故ニ薄板ト爲シ、細線ト爲シ、種
 々ノ機械、又ハ船ノ底等ニ用キラレ。又、釘ニ造リ、ブリキニ造
 ル等其ノ用廣シ。ブリキハ鐵ノ薄板ニ錫ヲ被セタルモノナ
 リ。
 鋼鐵ハ鍛ヒ方ニヨリテ彈力ノ強キモノト堅硬ニシテ脆キ
 モノトノ別アリ。凡テノ刃物、銃、及ビ種々ノ機械等ヲ造リ、又、
 軍艦ノ外部ヲ裝フハ皆コノ鋼鐵ナリ。

(五) 鉛。其ノ質極メテ軟カニ火ニ熔ケ易シ。銀ノ如キ光澤
 アレハ空氣ニ觸ルレバ淡黒キ錆ヲ生ズ。重キコトハ銅鐵ニ
 マサル。
 引キ延バシテ線ト爲スコト能ハザルモ、打チテ薄板ト爲ス
 コトヲ得。彈丸、銃、水道ノ管ヲ造ルナドノ外、其ノ用ノ最大ナ
 ルハ此ノ鉛ニアンチモノト合セテ活字ヲ製スルニアリ。
 又、鉛白、丹、丹、丹モ鉛ニテ製シタルモノナリ。イツレニモ毒ヲ含メ
 バ氣ヲツケテ用キルベシ。
 (六) 錫。其ノ質軟ニシテ白キ光アルヲ鉛ニ似タリ。然レハ
 錆ヲ生ゼズ。又、毒性ヲ有セズ。故ニ飲食ノ器ヲ造ルニヨロシ。
 引キ延バシテ線ト爲スコト能ハザレハ、箔トナスコトヲ得。箔ハ
 以テ物ヲ包ムニヨロシ。

錫ニ鉛ヲ混ゼタルヲ鐵ト云フ。銅器ノ内面ニ塗リテ鍍ビチ
フセギ。又、金屬ヲ接キ合ハスニ用キル。錫ハ錫石トイフ。鑛物
ヨリ採ルナリ。錫石ハ我が國ニモ産ズ。

(七)アンチモニー。其ノ色ト澤トハ錫ノ如クナレド、其ノ
質脆ク單ニ之ノミヲ用キルト能ハズ。然レド之ヲ他ノ金屬
ニ交ユレバ其ノ質ヲ硬クスルノ性アルヲ以テ廣ク用キラ
ル。

(八)亞鉛。一ニトタントモ云フ。鉛ニ似テヤ、白クヤハ堅
クヤ、熔ケ難シ。又タヤスク鍍ビズ。故ニ鐵板、鐵線ニ塗ル
アリ。亞鉛板ハ家根ヲ葺キ又、手桶、水桶等ヲ造リ、或ハ白粉ヲ
製ス。コノ白粉ハ人身ニ毒ヲ加ヘズ。亞鉛ハ亞鉛鑛ヨリ採ル
ナリ。

(九)水銀。奇ナル金屬ニシテ常ニハ熔ケタル鉛ノ如キ液
體ナリ。寒キ時ニハ氷リ、熱ニ遭ヘバ膨脹シ、沸騰シ、蒸發スル
ト水ノ如シ。故ニ之ヲ用キテ寒暖計、晴雨計ヲ造リ。又錫ト混
ゼテ玻璃ニ塗リテ鏡ヲ造リ。又、硫黃ト混ゼ燒キテハ朱ヲ製
ス。又、金、銀等ヲ溶解セシムルノ性アルニヨリ、金銀等ノ精鍊
所ニハ必要ノ品ナリ。然レド烈シキ毒アルモノナレバ之ヲ
用キル人ハ注意スベシ。

水銀ハ其ノマ、ニテ出ツル所モアレド多クハ辰砂ヨリ吹
キ分ケテ採ル。

(十)硫黃。黄色ニシテ質ハ脆シ。火ニ熔ケ易ク又、燃エ易シ。
火山ノ近傍ニテハ純粹ノモノヲ出スヲアリ。火藥ヲ製シマ
ツチ製造ニ用キル等其ノ用廣キ外ニ更ニ又、硫酸ヲ製スル

ノ大効アリ。

(十一) 鑛業。金、銀、銅、鐵等ノ鑛ノ出ツル山ヲ鑛山トイフ。之ヲ掘リ探リ之ヲ精鍊シテ地金ヲ製スルヲ鑛業トイフ。鑛ハ地層ノ中ニ脈ヲ爲シテ存ズルモノ故、其ノ端ヲ見ツクレバ其ノ脈ニ從テ何處マデモ地中ニ掘リ込ムナリ。此ノ穴ヲ坑トイフ。坑ニハ其ノ深サ一里以上ノモノアル所アリ。其ノ探リタル鑛ハ熱ノ力、藥ノ力、機械ノ働キ等ニテ其ノ混リ物ヲ除キ以テ地金ヲ得ルナリ。

第十、合金、鍍金。

二種ノ金屬ヲ混セ合スレバ更ニ別種ノ金屬ト爲ル、之ヲ合金トイフ。其ノ主ナルモノ左ノ如シ。

(一) 黃銅。銅ト亜鉛トノ合金ナリ。其ノ質軟クシテ其ノ價

廉ナリ。故ニ日用諸種ノ家具及ビ機械等ヲ造ル。眞バシテ倍トスレバ金倍ノ如シ。

(二) 青銅。銅ト錫トノ合金ナリ。其ノ質硬クシテ展バヌニ難キモ鑄ルニハ易シ。故ニ鍋、釜、及ビ偶像、燈籠等ヲ製造スルニ用キラル。鐘、大砲等ヲ造ルモ此ノ合金ナリ。

(三) 白銅。一ニ洋銀トイフ。銅ト亜鉛トニツケルトノ合金ニシテ其ノ色、銀ニ似タリ。各種ノ飾ニ用キラル。

(四) アルミ。銅トアルミニウムトノ合金ニシテ其ノ色、金ノ如クニシテ大ニ美ナリ。

(五) 赤銅。銅ニ少シノ黃金ヲ混ゼタルモノナリ。種々ノ裝飾ニ用キラル。

鍍金。

他ノ金屬ノ表面ニ金ヤ銀ヲ塗リツクルヲ鍍金トイフ。其ノ光澤ト色トハ元トノ金ト銀トニ同ジキヲ以テ飾品ニハ盛リニ行ハル。

第十一、火山、温泉、地震、海嘯。

(一)火山。山上常ニ煙ヲ噴キ出ス淺間山ノ如キチ火山トイフ。火山ニハ太古、煙ヲ出シシモ今ハ出デサルモノアリ。依テ活火山、休火山、死火山ノ名アリ。火山トハ稱スレハ具ニ火ヲ出スニアラズ。地中ニ在ル水蒸氣が出テ、煙ノ如ク見ユルナリ。

火山ハ休火山ハ勿論、死火山ト思ヒタルモノモ俄ニ破裂シテ煙ヲ噴キ出シ熔岩ヲ流シ出シ砂石ヲ噴キ飛バシ灰ヲ降ラスコトアリ。明治廿一年七月十五日磐梯山ノ破裂シタル

ガ如キ是レナリ。

地球ノ内部ハ極メテ強キ熱ヲ有ス。雨水等ガ次第次第ニ地中ニ入り込ミ岩石ノ破レ目ヲ過ギテ深ク進ミ入ルヤ終ニ其ノ熱ニアフ。然レハ地中深ク四方ニ岩石アリテ塞ガルヲ以テ沸騰シテ水蒸氣トナルヲ能ハズ。地中ノ熔ケタル物ニ混ジテ共ニ次第ニ岩石ノ破レ目ヲ求メテ上リ、土地ノ表面ニ近クナルヤ、上ヨリ壓ス岩石ノ力弱キ故ニ俄ニ沸騰シテ膨脹ノ力ヲ過クシ終ニ其ノ地ヲ破裂セシムルナリ。其ノ土地ヲ押し破ルヤ恰モ紙ノ中央ヲ押し破ル時ノ如クニ中央ニ噴火口ヲ造リテ四方ノ地層ヲ高メ以テ圓錐形ノ山トナス。

(三)温泉。地熱ノタメニ熱セラレ熱キ水トナリテ湧キ出

ツル泉ヲ温泉トイフ。故ニ温泉ハ火山ノアル近傍ニ多シ。温
泉ハ地中ニ在ル種々ノ礦物ヲ溶解シテ來ルニ依リ之ニ浴
スレバ大ニ人身ヲ健康ニスルノ効アリ。

(三)地震。風モナキ時ニ不意ニ戸、障子ノ動キ出シ、家屋搖
リ出シ、強キキハ舟ニ乘リテ搖ラル、如キコトニ逢ヒテ大ニ
驚クコトアリ。之ヲ地震トイフ。

地震ノ強クシテ大ナルモノハ一時間ニワタルモノアリ。一
日以上モ止マサルモノアリ。家屋ヲ搖リ倒シ、地面ヲ破リテ、
或ハ高クシ成ハ深ク爲スコトアリ。サレバ斯ノ如キ大地震
ノ時ニハ家屋ヲ失ヒ田地ヲ失ヒ、人畜ヲ害セラル、コト極
メテ多シ。明治二十四年ノ美濃、尾張ノ大地震。明治廿七八年
ノ羽後ノ大地震ノ如キハ實ニ多クノ土地人畜ヲ害シ損ジ

タリ。

地震ノ起ル其ノ原因ニハ種々アリテ、地ニ地震、陥入地震ノ
名アリ。

地ニ地震ハ地球ノ内部、熱ヲ失フ所、漸ク固マリテ縮マルヤ
其ノ外方ニ在ル地層ニ破レ目ヲ生ジ、地層ハ沁リ陥リテ此
ノ時、震動ヲ生ズルナリ。

陥入地震ハ地下深ク入り込ミタル水ガ、地中ノ物質ヲ溶解
シテ沸キ出ヅルノ久シキ終ニ空洞ヲ生ジ、其ノ上部ノ地ノ
陥没スル時ニ起ル震動ナリ。而シテ地震トナリテ地上ヲ震
動スルニ及ビテヤ、上下動、横動、旋動等ノ別アリ。地震ハ實ニ
恐ルベキモノナレド、未ダ之ヲ前知スルノ法ヲ發明シタル
モノアラス。

(四)海嘯。海中ニ地震ノ起リタル片ハ海水ヲ動カシテ大
浪ト爲シ、以テ海岸ヲ浸スコトアリ。之ヲ海嘯トイフ。又、海嘯
ハ海中ニ暴風ノ起リタル時ニモ生ズ。海嘯ノ大害ヲ爲スコ
トハ、明治廿九年六月、陸中國地方ニ起リタルモノヲ以テ知
ルベシ。

第十二、天體。

(一)地球。地球ハ其ノ形、球ノ如キモノナリ。故ニ船ニ乘リ
テ西方ニ進メバ一周シテ東ヨリ歸ルコトヲ得。又、海岸ニ立
チテ出テ行ク船ヲ見ルニ、船體先ツカクレ、次ニ帆ヲ見エズ
ナルモ、コレ海面ガ球ノ一部ヲ爲シテ曲リ居ルガ故ナリ。
地球ハ一ノ球ニシテ陸ト海トヲ以テ表面トシ、空氣ニ包マ
ル。空氣ヨリ外方ニハ何モノナキ大空ニシテ即チ天ナリ。

故ニ地球ハ何レニ向フモ天アリ。故ニ又、圓キ形ナレド其ノ
上ニ生活スルモノハ日本人モ亞米利加人モ倒ニ立ツトイ
フ。愚ナキナリ。

(二)太陽系統。晴レタル夜、空ヲ見ルニ多クノ星アリ。コレ
皆我が地球ノ如キ一ツ一ツノ世界カ、又ハ太陽ト等シキモ
ノナリ。世界ヲナスチ行星トイヒ太陽ニ等シキチ恒星トイ
フ。

行星ハ地球ト共ニ太陽ノ光ヲ受ケ太陽ノ周リニ屬ス。太陽
ハコレ等ノ行星ヲ引キツケテ其ノ周リヲメグラシム。コノ
太陽及ビ行星ヲ太陽系統トイフ。

(三)晝夜。地球ニ晝ト夜トノ別チ生ズルハ、全ク地球ガ日
々一メグリツ、シテ太陽ノ周リヲマハルニ依ル。其ノメグ

リテ太陽ニ向フヤ、晝トナリ。太陽ニ背ク所ハ夜ト爲ル。其ノ日々メグルチ自轉トイヒ、太陽チ一周スルチ公轉ト云フ。

(四)太陽月。地球ハ太陽チメグル行星ニシテ月ハ地球チメグル衛星ナリ。其ノ各ノ大サチ物ニ譬ヒンニ、大凡先ヅ、太陽ハ大水瓜ノ如ク、地球ハ杏ノ如ク、月ハ小ナル小豆ノ如シ。然レハ太陽八月ヨリ四百倍程モ遠キチ以テ殆ソ月ト同シ大サ位ニ見ユルナリ。

(五)月蝕。月ハ元ヨリ光ナキモ、太陽ノ光チ受ケテ光ルナリ。月ガ地球チメグリ地球ガ太陽チメグル中ニ太陽、地球、月ノ三ガ眞直ニ並ブコトアリ。然ルルハ月ハ地球ノ蔭ニナリテ太陽ノ光チ受クルコト能ハサルニヨリ暗クナル。之チ月蝕トイフ。月蝕ニハ全ク蝕スルト、半バ蝕スルト、一部分蝕ス

ルトノ別アリ。ソレハ其ノ並ビ工合ノ全ク眞直ニナルト少シク眞直ノ所チハツル、トニ因ルナリ。

(六)日蝕。前ノ如ク月ガ地球チメグル中ニ太陽、月、地球ガ眞直ニ並ブコトアリ。然ルルハ月ガ太陽ヨリ地球ニ與フル光チ遮ギルチ以テ地球ノ上ニ暗キ所チ生ズ。此ノ暗キ所ニ在リテハ此ノ時、太陽、全ク月ノ蔭ニナルチ以テ見ルコト能ハズ之チ日蝕トイフ。日蝕ニモ其ノ太陽ト月ト地球トノ並ビ工合ニヨリテ、全蝕、半蝕、金環蝕ノ別アリ。

(七)潮汐。海近キ所ノ川チ見ルニ一日ノ内ニ川水ノ却テ上ニ向ヒテ流レ大ニ水ノ深サチ増ス時ト、下ニ流レ去リテ大ニ水ノ淺クナル時トアリ。此ノ如クニ水ノ増シ減リアルハ單ニ川ノミナラズシテ、海岸一體ニ在ルナリ。之チ潮汐ト

イフ。
 凡テ物ト物トノ間ニハ互ニ引キヨセントスル力アリ。之ヲ
 引カトイフ。引カハ物ノ大ナルモノ強ク、又、其ノ間ノ近キ物
 ハ遠キ物ヨリ強シ。
 潮汐ノ起ルハ太陽ト月トガ地球ニ及ボス引力ニヨル。而シ
 テ月ハ極メテ近キヲ以テ大ニ關係アリ。
 月ハ地球ヲ引カントシテ其ノ表面ノ海水ヲ引キ寄セテ此
 ニ海水ヲアツメテ高クナラシム。之ヲ滿潮ト云フ。滿潮ハ上
 ノ理ニヨリテ生ズルモノナレバ、月ニ向フ所、即チ月ヲ頭上
 ニ仰グ地方ニ生ズルナレバ同時ニ又、其ノ反對ノ地方ニモ
 生ズ。前ノ表潮トイヒ後ノ裏潮トイフ。此ノ時ニ當リ地
 球上ノ海水ハ此ノ二地方ニ引キヨセラルハニ依リ之ト直

角ヲナス地方即チ兩滿潮ノ間ニ在ル地方ハ大ニ海水ヲ減
 ズ、之ヲ干汐トイフ。滿潮及ビ干汐ハ大凡二十五時間ニ各二
 回ツ、アリ。
 太陽ト月トカ並ビテ滿潮ヲ起スルハ滿潮、干汐、特ニ甚ダシ
 之ヲ大潮汐トイフ。潮汐ハ海岸ヲ清潔ニナス功大ナリ。

版權
所有

昭和十一年五月廿八日發行

東京日本橋區本石町三丁目三番地

發行兼
印刷者

杉山辰之助

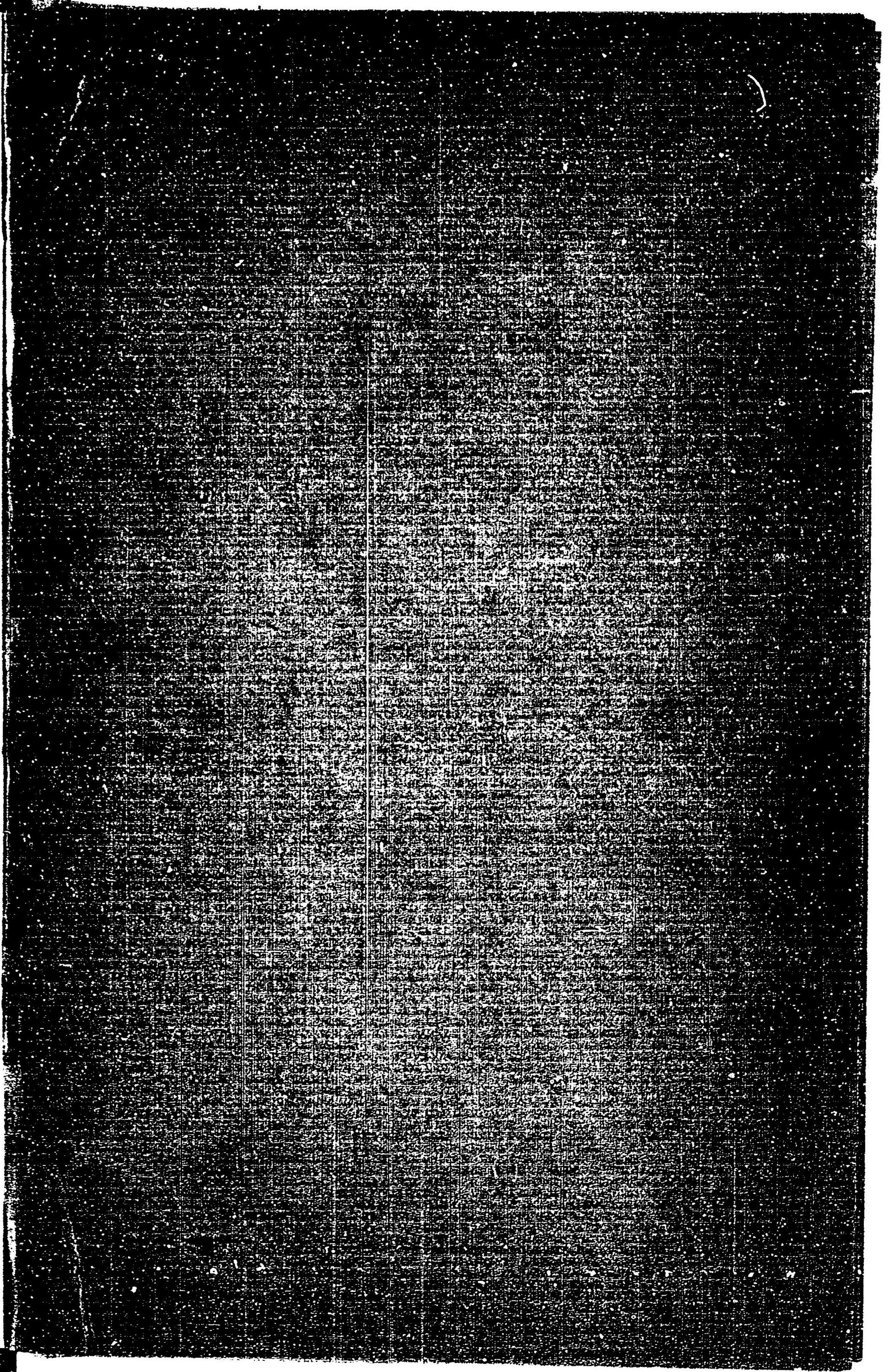
金昌堂

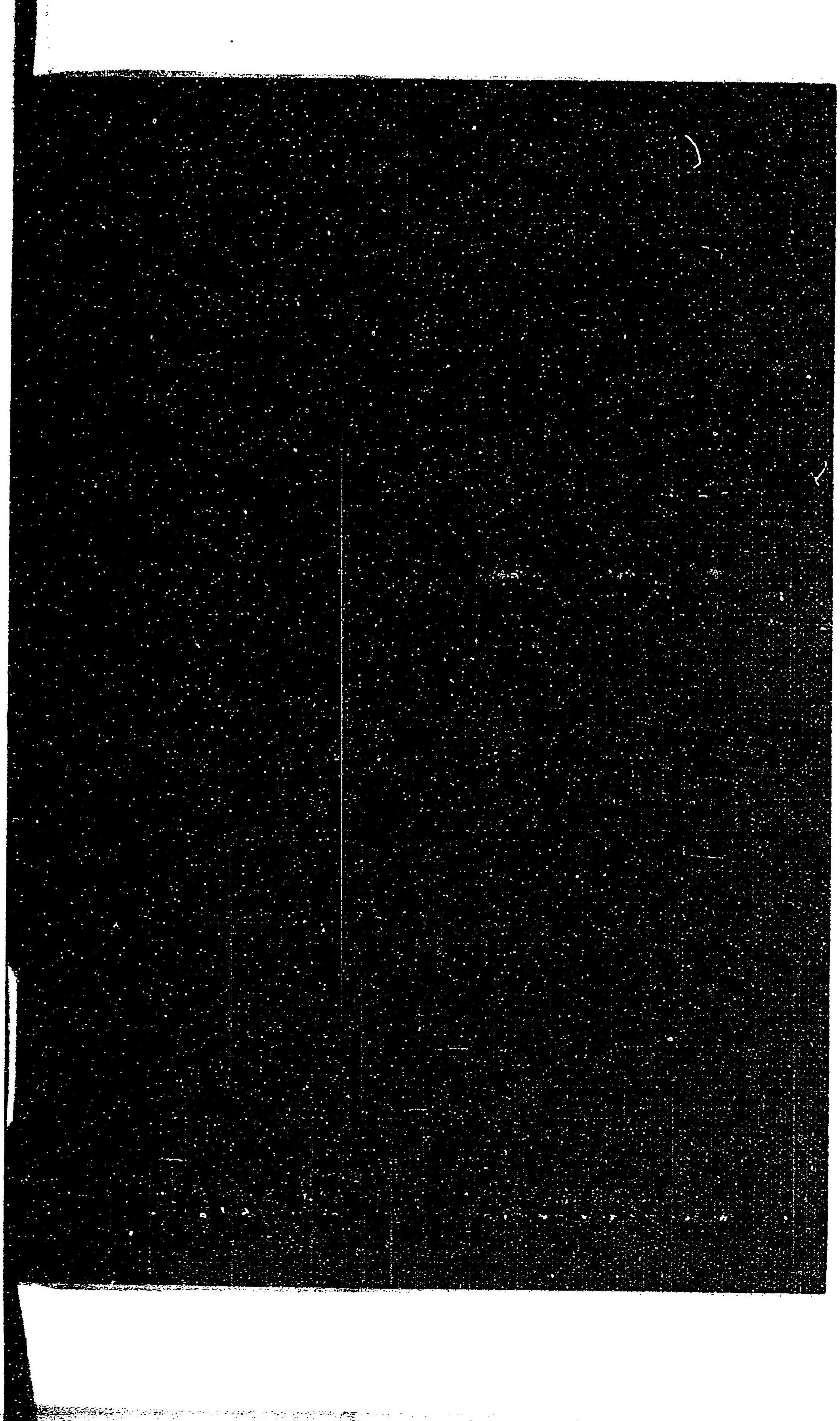
東京市日本橋區通油町

大賣捌所

水野書店

賣捌所





高等小学復習書

作文科・地理科・歴史科
理科

第1学年，第2学年

国立国会図書館

049207-000-8

特54-616

高等小学復習書 一名，高等小学生徒の友

小学教育法研究会／編

M31

BEL-0158

